

令和2年度 三重大学 教員免許状 更新講習 事業報告書

目 次

■サブタイトル：現職教員の資質向上をめざして

はじめに-----	2
I 事業の流れ	
1 令和2年度の更新講習への取り組みとその概要-----	3
2 教員免許状更新講習実施委員会・運営部会・企画部会活動の記録-----	5
II 令和2年度の講習	
1 講習の概要-----	7
2 開設講習-----	9
3 受講者評価書-----	11
4 受講者評価書・自由記述-----	13
5 2017～2020年度における受講評価の詳細-----	23
6 講師によるふりかえり-----	28
7 担当講師の立場から-----	47
おわりにー今後に向けて-----	50

はじめに

三重大学教員免許状更新講習実施委員会委員長
富 樫 健 二

令和 2 年度は全世界的にコロナ禍に見舞われ、三重大学の教員免許状更新講習事業も対応に追われた 1 年でした。例年、次年度の計画は前年度の秋口から立て始め、令和 2 年の 4 月 3 日から受講者の受付を通常通り開始する予定でしたが、1 月から新型コロナウイルスが猛威をふるい始め、当初様子をみていたものの夏頃までに改善は見込めないと判断し、6 月、7 月講習分の申し込みは延期、8 月、10 月は対面で行えることを想定して受付を開始しました。その後、さらに状況は悪化し、4 月 16 日には緊急事態宣言が都市部のみならず全国に拡大されるに至ったため、5 月には 8 月、10 月の講習を含む全ての講習を動画によるオンデマンド講習に切り替えることを決定しました。この判断は文部科学省が対面からオンデマンドへの講習実施形態変更の手続きを簡略化したことや認定試験の実施方法を郵送による返送でも構わないとした特例措置を示したことにもよります。

三重県は南北に長く、三重大学に講習を受けに来るためにはかなりの移動時間を要する受講者もみえたため以前からインターネットを使った講習の検討は進めていましたが、配信システムをどうするのか、どの講習を動画化するのか、また、担当講師の先生方に受け入れてもらえるのかなどで二の足を踏んでいた状態でした。今回はコロナ禍により背中を押され、やらざるを得ない状況のなかでオンデマンド化を準備してきたこととなります。担当講師の先生方には不慣れな動画作成で大変なご負担をおかけしましたし、対面講習でしか対応できない先生方も残念に思われたかもしれませんが、これまで検討してきた新しい更新講習の実施方法を構築することができたこととポジティブに捉え、今後も一部は提供できる体制にできればと思います。

結果として、担当講師の先生方には 58 もの動画コンテンツを作成頂き、受講者が動画を視聴できる期間は 10 月 1 日～11 月 16 日の 46 日間と設定できました。しかしながら、最終的な受講者数の状況は必修講習 315 名、選択必修講習 323 名、選択講習 885 名、総受講者数で 1,523 名と例年の半数程度にとどまってしまいました。理由としてはオンデマンド講習の申込開始が 7 月 27 日に延期され三重大学で受講できるのか不安に思った受講者が他県のオンライン講習に流れたことや 1 年目の講習を控えたことなどによると推察しています。オンデマンド講習になりますと、地理的な条件がなくなるため質の高い講習が評価を得て行くこととなります。幸いにも令和 2 年度の受講者評価は「よい」の評価で令和元年度よりやや低値を示したものの、全体としては対面講習と大きく変わらない評価となっています。自由記述欄においても対面講習がよかったと記載される受講者の方は一定数いますが、「勤務が終わった後に時間をうまく使えた」「自分のペースで受講することができた」「何度も繰り返してみることができた」「交通費や移動時間に縛られなかった」「コロナ禍でも安心して受講することができた」など肯定的な意見も沢山頂いております。ひとえに動画を作成頂いた先生方のご尽力の賜物と感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの脅威は未だ収まらず、令和 3 年度もオンデマンドでの講習が継続されます。受講者、講師ともに対面講習を希望される方は多数おられますので 1 日も早くコロナが終息し、対面で安全に最新の知識、技能を身につけることができる日が来ることを祈念したいと思います。引き続き皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

I 事業の流れ

1 令和2年度の更新講習への取り組みとその概要

本年度は、当初対面講習として、必修講習 11 講習、選択必修講習 25 講習、選択講習 95 講習の計 131 講習を上浜キャンパスと東紀州地域で開設する予定であった。しかしながら、令和元年3月頃からコロナ禍の影響が急速に拡大したことにより、4月上旬から予定していた受講申し込みについては、6・7月分を延期し、8月・10月分のみを受け付けた。6月には文部科学省より、対面式で申請した講習の通信・インターネット式への変更を可とし、さらに通信・インターネット式講習の本人確認の方法として、自署による回答を郵送することで認める旨の特例が示された。このことにより、本学は対面式講習ではなく、インターネット式のオンデマンド動画配信講習で開講することを決定した。

オンデマンド動画配信講習として開講した講習は、必修講習 6 講習（定員総計 950 名）、選択必修講習 11 講習（連絡協議会主催講習分 1 講習を含む。定員総計 880 名）、選択講習 41 講習（定員総計 2,450 名）の計 58 講習（定員総計 4,280 名）となった。講習数は当初予定の 131 講習から半分以上の講習が廃止となったが、県内受講者数分の定員枠は確保する必要があるため、58 講習の定員数をそれぞれ拡大した。必修講習は 1 講習あたり定員 130 名、選択必修講習は定員 70 名、選択講習は 50 名を基本とした。延べ受講者は、必修講習で 315 名、選択必修講習で 323 名、選択講習で 885 名であり、全体では 1,523 名（実人数 404 名）であった。

必修講習と選択必修講習は主に本学教育学部教員が中心となって開講した。選択講習は、例年通り、本学教育学部の全教員と、人文学部、医学部、工学部、生物資源学部、教養教育院、地域人材教育開発機構、アドミッションセンター等の教員に開講を依頼した。連絡協議会主催の講習は当初皇學館大学と三重大で 1 講習、高田短期大学と鈴鹿大学・鈴鹿短期大学部で 1 講習を申請し、本学が取りまとめ役となって準備を進めていたが、オンデマンド動画配信講習への変更が決定されたことにより、高田短期大学と鈴鹿大学・鈴鹿短期大学部の教員が担当する 1 講習のみを開講した。

本年度はオンデマンド動画配信講習への変更により、講習実施計画を急遽再設計する必要が生じた。本学はこれまで受講者が必修講習 1 つ、選択必修講習 1 つ、選択講習 3 つを受講できる体制を整えてきたが、講習数が半減した中でも同様の講習時間数を確保できるよう、担当講師の協力を得て受講者枠を拡大して開設することができた。ただし、実技系の科目についてはオンデマンド動画配信講習で開講することが難しく、今後のオンデマンド動画配信講習での課題となっている。

本年度は定員数を当初の対面講習と同等に確保したが、結果としては予定していた受講者数の約半数ほどの受講者数に留まった。その要因としては、4月の募集を一部延期してから、オンデマンド動画配信講習への変更を案内し、募集を開始するまでに時間がかかったことで、その期間中に他大学の講習に申し込んだ受講者が一定数いたのではないかと考えられる。その他にも、令和2年度

の受講は見送り、令和３年度に受講する予定の受講者もいると想定される。本年度の受講状況が来年度の受講者数にどのように反映されるのか現段階では不明である。

受講者による評価を見ると、本年度の「本講習の内容・方法についての総合的な評価」は、必修講習全体で「よい」59.5%、「だいたいよい」38.9%、合わせて98.4%、選択必修講習全体で「よい」63.2%、「だいたいよい」34.9%、合わせて98.1%、選択講習全体では「よい」63.6%、「だいたいよい」34.6%、合わせて98.2%となった。また、「最新の知識・技能の習得の成果」に関しては、必修講習全体で「よい」57.6%、「だいたいよい」41.2%、合わせて98.8%、選択必修講習全体で「よい」60.7%、「だいたいよい」38.1%、合わせて98.8%、選択講習全体では「よい」60.5%、「だいたいよい」37.7%、合わせて98.2%となった。「講習の運営面」に関しては、必修講習全体で「よい」57.6%、「だいたいよい」41.2%、合わせて98.8%、選択必修講習全体で「よい」60.7%、「だいたいよい」38.1%、合わせて98.8%、選択講習全体では「よい」60.5%、「だいたいよい」37.7%、合わせて98.2%を示した。どの評価項目・領域においても、「よい」の比率は昨年度よりも下がってはいるものの、「よい」と「だいたいよい」の合計比率は昨年度よりも高くなっていた。「よい」よりも「だいたいよい」の比率が増えていることについては、本年度のオンデマンド動画配信講習を対面講習の実施と比べていることも要因と考えられる。

現時点では令和３年度はオンデマンド動画配信講習のみを開設することが決定している。初めてのオンデマンド動画配信講習の実施で後手に回っていた対応などを改善し、「よい」の評価をいただけるようにさらに改善に努める必要がある。

2 教員免許状更新講習実施委員会・運営部会・企画部会活動の記録

【教員免許状更新講習実施委員会】

- ・ 第1回 令和3年1月7日（木）
議題
 - ・ 令和2年度三重大学教員免許状更新講習実施報告について
 - ・ 全学教育実施体制の機能強化に向けた見直しと組織再編（案）について
 - ・ 令和3年度三重大学教員免許状更新講習開設計画（案）について
 - ・ 教員免許状更新講習実施委員会部会内規（案）について

【教員免許状更新講習運営部会・企画部会】

- ・ 第1回 令和2年4月15日（水）
議題
 - ・ 6月・7月分講習の延期措置について
 - ・ 教育学部教授会報告事項について
 - ・ 特別配慮の必要な受講者対応について
 - ・ 令和元年度環境整備実績報告書について
 - ・ 運営部会・企画部会の年間スケジュールについて
 - ・ 運営部会・企画部会開催日（案）について
 - ・ 令和2年度企画部会役割分担（案）について
 - ・ コロナウイルス感染症の影響拡大による開講に向けての課題と対応について
 - ・ 現時点での開催日・開催計画について
 - ・ 受講者評価書回答方法について
- ・ 第2回 平成29年5月20日（水）
議題
 - ・ 令和2年度教員免許状更新講習の現状報告と今後の方針について
 - ・ 今年度当初の開設計画と8月・10月分の申し込み状況について
 - ・ 今後の講習運営のスケジュールについて
 - ・ オンライン開講への切替に向けての担当講師へのヒアリング実施について
 - ・ 6月の運営部会開催について
- ・ 第3回 令和2年6月17日（水）
議題
 - ・ 令和2年度教員免許状更新講習（オンデマンド配信）開設計画について
 - ・ 「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた教員免許更新制に係る手続等の留意事項について（通知）」について
 - ・ オンライン講習計画表について
 - ・ 受講者への案内について
 - ・ 教材費の配分について
 - ・ オンデマンド配信動画作成要項について
- ・ 第4回 令和2年7月15日（水）
議題
 - ・ オンデマンド配信講習申込状況について
 - ・ 今後のスケジュールについて
 - ・ 令和2年度教員免許状更新講習担当講師への教材費について
 - ・ 動画配信について
 - ・ オンデマンド講習への切り替えに伴う講習の変更・廃止について
 - ・ オンデマンド動画作成講習会について
 - ・ 附属学校園・さつき保育園の受講希望者について

- ・ 第 5 回 令和 2 年 9 月 1 6 日（水）
議題
 - ・ 令和 2 年度教員免許状更新講習受講申込者数について
 - ・ 教材費の配分について
 - ・ 受講者評価書について
 - ・ 令和 3 年度教員免許状更新講習開設計画について
 - ・ 令和 3 年度担当講師選出依頼について
 - ・ 選択講習・選択必修講習の開設調書について
 - ・ 企画部会・運営部会の実施体制の見直しについて

- ・ 第 6 回 令和 2 年 1 0 月 2 1 日（水）
議題
 - ・ 令和 2 年度教員免許状更新講習受講申込者数について
 - ・ 令和 3 年度担当講師選出依頼について
 - ・ 令和 3 年度必修・選択必修講習担当の 5 領域担当講師会議について
 - ・ 令和 2 年度教員免許状更新講習担当講師の特殊勤務手当について
 - ・ 令和 3 年度教員免許状更新講習の開設方針について

- ・ 第 7 回 令和 2 年 1 1 月 1 8 日（水）
議題
 - ・ 令和 2 年度教員免許状更新講習受講状況について
 - ・ 令和 3 年度担当講師選出依頼について
 - ・ 令和 3 年度教員免許状更新講習の開設予定調査について
 - ・ 令和 3 年度教員免許状更新講習の開設について

- ・ 第 8 回 令和 2 年 1 2 月 1 6 日（水）
議題
 - ・ 令和 2 年度教員免許状更新講習履修認定について
 - ・ 令和 3 年度教員免許状更新講習の開設計画について
 - ・ 令和 3 年度教員免許状更新講習担当非常勤講師について
 - ・ 令和 3 年度教員免許状更新講習開設スケジュールについて
 - ・ 令和 3 年度教員免許状更新講習募集要項について
 - ・ 教員免許状更新講習実施委員会部会内規の改訂について

- ・ 第 9 回 令和 3 年 1 月 2 0 日（水）
議題
 - ・ 令和 2 年度三重大学教員免許状更新講習実施報告について
 - ・ 全学教育実施体制の機能強化に向けた見直しと組織再編（案）について
 - ・ 令和 3 年度三重大学教員免許状更新講習開設計画（案）について
 - ・ 教員免許状更新講習実施委員会部会内規（案）について

- ・ 第 1 0 回 令和 3 年 2 月 1 8 日（水）
議題
 - ・ 三重大学教員免許状更新講習実施委員会部会内規の改正について
 - ・ 令和 3 年度教員免許状更新講習担当講師への教材費の配分について
 - ・ 令和 3 年度オンデマンド動画配信用動画作成要項について

- ・ 第 1 1 回 令和 3 年 3 月 1 7 日（水）
 - ・ 認定申請結果等について
 - ・ 障害を有する受講者について
 - ・ 委員の任期満了に伴う交代について
 - ・ 令和 2 年度教員免許状更新講習事業報告書について
 - ・ 令和 3 年度運営部会・企画部会開催日程（案）について

Ⅱ 令和2年度の講習

1 講習の概要

（１）必修領域

必修領域の内容は、文部科学省の指定する4項目を実施した。

A 国の教育施策や世界の教育の動向

B 教員としての子ども観、教育観等についての省察

C 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）

D 子どもの生活の変化を踏まえた課題

（２）選択必修領域

選択必修領域は、文部科学省の指定する以下の8領域を実施した。

①学校を巡る近年の状況の変化

②学習指導要領の改訂の動向等

③様々な問題に対する組織的対応の必要性

④育成を目指す資質及び能力を育むための主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

⑤教育相談（いじめ及び不登校への対応を含む。）

⑥進路指導及びキャリア教育

⑦英語教育

⑧教育の情報化（情報通信技術を利用した指導及び情報教育（情報モラルを含む。）等）

（３）選択領域

選択領域の内容は、文部科学省の指定する以下の内容で実施した。

幼児、児童又は生徒に対する教科指導及び生徒指導上の課題

2 開設講習

（１）講習実施形態

年度当初にはコロナ禍の影響が拡大し、緊急事態宣言の発令があった。文部科学省からは令和2年度に開設する教員免許状更新講習として申請済みの講習について対面式から通信式への変更が認められ、さらに本人確認方法の特例も示されたため、本学ではオンデマンド動画配信にて開講する

こととした。

（２）開設講習数

令和２年度は必修領域（６時間）を６講習、選択必修領域（６時間）を１１講習、選択領域（６時間）を４１講習計画した。また、三重県連絡協議会主催の選択必修領域（６時間）を１講習定員７０人規模で計画した。

（３）担当講師

必修講習は、教育学部教員に依頼した。

選択必修講習は、教育学部を中心に一部学外からの非常勤講師にも依頼した。

選択講習は、教育学部を中心に、人文学部、医学部、工学部、生物資源学部、教養教育院の教員、一部学外からの非常勤講師にも依頼した。

（４）開講時期

令和２年度は、１０月１日から１１月１６日までを視聴期間とし、答案等の提出期限を１１月２０日までとした。

（５）講習会場

すべてオンデマンド動画配信での実施としたため、会場は使用しなかった。

（６）受講申込者が極めて少数の講習の取り扱いについて

受講申込みが極めて少数という講習があったが、受講者の要望に応えるものとして、開講した。

（７）開設講習一覧

次頁に開設講習の一覧を実際の履修認定者数等の情報も加えて掲載する。

令和２年度教員免許状更新講習（オンデマンド配信）開設一覧

区分	講習名	学部	講座	講師名	定員	履修認定 対象職種	総申込者数	主な受講対象者	備考
必	教育の最新事情１～障がいのある子どもに対する教育支援・教育の動向と教員の子ども観～	教		菊池 紀彦・大日方 真史	130	全教員	43	幼・小・中・高・特・養護・栄養	
必	教育の最新事情３～合理的配慮と障がいのある子どもに対する教育支援～	教		菊池 紀彦	130	全教員	35	幼・小・中・高・特・養護・栄養	
必	教育の最新事情４～我が国の教育課題と教育観についての省察～	教・教養		須曾野 仁志	180	全教員	12	幼・小・中・高・特・養護・栄養	
必	教育の最新事情５～脳科学や心理学の最新知見を、学校現場でどう活かすか～	教		松浦 直己	130	全教員	35	幼・小・中・高・特・養護・栄養	
必	教育の最新事情７～諸外国の事情～	教		伊藤 敏子・須曾野 仁志	200	全教員	129	幼・小・中・高・特・養護・栄養	
必	教育の最新事情９～教員として学び続け、教育実践を改善する～	教		須曾野 仁志	180	全教員	61	幼・小・中・高・特・養護・栄養	
選必	学習心理学から考える協同的アクティブラーニング	教	学校	中西 良文	70	全教員	13	幼・小・中・高・特・養護・栄養	
選必	新要領・指針から見る幼児教育・保育のこれから	教	幼児	富田 昌平	70	全教員	20	幼・小	
選必	世界の生活文化から考える異文化理解学習	教	社会	永田 成文	70	全教員	12	幼・小・中・高・特・養護・栄養	
選必	「チームとしての学校」を考える～多忙化の解消・同僚性の構築・新たなリーダーシップ～	教	学校	織田 泰幸	70	全教員	12	幼・小・中・高・特・養護・栄養	
選必	「主体的・対話的で深い学び」が求められる要因・学習指導要領からみる教師の専門性	非		寶來 敬章・長澤 貴	70	全教員	6	幼・小・中・高・特・養護・栄養	連絡協議会主催講習
選必	教育活動全体を通して組織的・体系的に行うキャリア教育	生		齋藤 俊彰	70	全教員	30	幼・小・中・高・特・養護・栄養	
選必	ADHD、自閉症スペクトラム、発達性ディスレクシアの理解と対応について	教	特支	松浦 直己	100	全教員	104	幼・小・中・高・特・養護・栄養	
選必	児童が楽しんで学べる外国語活動・外国語指導法	教	東	大野恵理	70	全教員	27	幼・小・中高（英語）・特・養護・栄養	
選必	発達障害のある幼児・児童・生徒や気になる子への教育や支援の現状と対応	教学生		森 浩平・風間 惇希	70	全教員	42	幼・小・中・高・特・養護・栄養	
選必	学校におけるキャリア教育と起業家教育	非		山根 栄次	70	全教員	11	小・中・高・特・養護・栄養	
選必	参加・発信型のＩＣＴ学習利用	教	教職	須曾野 仁志	150	全教員	46	幼・小・中・高・特・養護・栄養	
選	日常生活と社会科学を結ぶアクティブラーニング実践	人		中川 正	50	教諭	2	高	
選	数と図形の話	教	数学	新田 貴士	50	教諭	16	小・中高（数学）・特	
選	小学校音楽科の授業づくり	教	音楽	川村 有美	50	教諭	19	小	
選	最適設計を取り入れたものづくり教材	教	技術	松本 金矢	50	教諭	4	幼・小・中・高・特	
選	“ピオトーブ”は野生生物の生息空間とはいうものの・・・	生		成岡 市	50	教諭	10	幼・小・中・高	
選	鑑賞教育（美術）	教	美術	山口 泰弘	50	教諭	8	中高（美術）	
選	学びの基盤を育む運動（遊び）	教	保体	加納 岳拓	50	教諭	32	幼・小	
選	バイオマスによる化石資源代替	生		野中 寛	50	教諭	11	小・中高（理科）	
選	古典文学と昔話	教	国語	松本 昭彦	50	教諭	12	中高（国語）	
選	清朝の統治構造と現代中国	教	社会	大坪 慶之	50	教諭	6	小・中（社会）・高（地理歴史担当）	
選	魅惑の数 「黄金比と円周率」	教	数学	玉城 政和・森山 貴之	50	教諭	12	中高（数学）	
選	学習モチベーションの心理学	教	学校	中西 良文	50	教諭・養護教諭	39	幼・小・中・高・特・養護	
選	学校保健	医		三谷 義英・菅 秀 長尾 みづほ・山川 紀子	50	教諭・養護教諭	29	幼・小・中・高・特・養護	
選	子どもの発達発達・運動と健康	教養	保体	富樫 健二	50	教諭・養護教諭	17	小・養護	
選	小中学校で使える地学教材：体験を通して学ぶ活用	教	理科	伊藤信成・栗原行人	50	教諭	8	小・中（理科）	
選	学校・学級・家族の思い出をまとめるフォトムービーの制作	教	学教	須曾野 仁志	150	教諭・養護教諭	37	幼・小・中・高・特・養護	
選	学習用コンピュータを使用したプログラミング教育の実践例	工		高瀬 治彦・山村 直紀	50	教諭	2	小・中・高	
選	論理トレーニング	教	社会	秋元 ひろと	50	教諭	6	小・中・高	
選	公民経済分野の基礎と要点	教	社会	内田 秀昭	50	教諭	7	中（社会）高（公民）	
選	わかる数学の授業を目指して	教	数学	中西 正治	50	教諭	5	中（数学）	
選	理科の授業に役立つ科学教育シミュレーション	教	理科	國仲 寛人	50	教諭	7	小・中（理科）・高（物理担当）	
選	VBAによるプログラミング入門	教	情報	萩原 克幸	50	教諭	4	幼・小・中・高・特	
選	「教えない」授業を学ぶ～能動的な協働学習を促すシナリオ教材の設計～	地		宮下 伊吉	50	教諭	19	中・高	
選	平方数の和	教	数学	露峰 茂明	50	教諭	11	中高（数学）	
選	野菜を好きになってたくさん食べよう	生		齋藤 俊彰	50	教諭・養護教諭	54	幼・小・中・高・養護	
選	外国につながる児童のための日本語指導－形容詞と動詞を中心に－	地		松岡 知津子	50	教諭	9	小	
選	中学・高校の現代文定番教材を読みなおす	教	国語	和田 崇	50	教諭	23	中高（国語）	
選	家庭科における「消費生活・環境」の授業づくり	教	家政	吉本 敏子	50	教諭	11	小・中高（家庭）	
選	これならできる簡単スクラッチプログラミング	教	学教	須曾野 仁志	150	教諭	47	幼・小・中・高・特	
選	あなたの遺伝子わたしの遺伝子－生命科学を身近な例で学ぶ－	生		奥村 克純	50	教諭	22	小・中・高	
選	社会科・公民科の授業における新聞活用（NIE）	非		山根 栄次	50	教諭	5	小・中（社会）・高（公民）・特	
選	小学校における英語コミュニケーション能力の育成	非		清水 万里子	50	教諭	36	幼・小・中（英語）	

選	学習者(国語教育・日本語教育)の初期教育における文字表記の問題点と指導法	教	国語	余 健	50	教諭	10	幼・小	
選	窒息・溺水・熱中症・救命処置・インフルエンザ	医		丸山 一男	100	教諭・養護教諭	84	幼・小・中・高・特・養護	
選	世界の教育事情	教養		下村 智子	50	教諭	42	小・中・高	
選	これからの読解力を育てる小学校国語科の授業	教	国語	守田 庸一	50	教諭	38	小	
選	運動意欲を高める行動科学の手法	教	体育	重松 良祐	50	教諭・養護教諭	39	幼・小・中・高・特・養護	
選	学校でできる虐待対応・愛着の障害および発達の問題について	教・非	特支非	松浦 直己・鈴木 聡	100	教諭・養護教諭	100	幼・小・中・高・特・養護	
選	三重大学東紀州サテライト教育学舎による教育支援と地域の特色を活かす今後の活動	教		須曾野 仁志	150	教諭・養護教諭	6	幼・小・中・高・特・養護	
選	わかる算数の授業を目指して	教	数学	中西 正治	50	教諭	13	小・特	
選	コンピュータハードウェアの基礎	教	情報	山守 一徳	50	教諭・養護教諭	23	幼・小・中・高・養護	
合 計					4,280		1,523		

上記人数には附属学校園・さつき
保育園に勤務する受講者を含む
(実人数15名・延べ人数71名)

オンデマンド開講講習の合計			
区分	講習数	定員数	申込者数
必修講習	6	950	315
選択必修講習	11	880	323
選択講習	41	2450	885
合計	58	4280	1523

3 受講者評価書

教養教育院 森山貴之

1. はじめに

教員免許状更新講習では、本年度もこれまで（平成21～令和元年度）と同様に講習受講後に受講者による受講者評価書への記入が行われた（但し、本年度はオンデマンド配信のため郵送による提出）。本稿では、その評価項目への回答について分析した結果を報告する。

2. 方法

全受講者に対し受講者評価書を配布し、記入、郵送を依頼した。受講者の延べ人数は1,523名と昨年度と比較して約800名減少した。内訳は必修講習受講者315名、選択必修講習受講者323名、選択講習受講者885名だった。（いずれも延べ人数）。

評価項目数は「Ⅰ 本講習の内容・方法について」が6項目、「Ⅱ 本講習の成果について」が5項目、「Ⅲ 本講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）について」は2項目の計13項目であった。これらの項目について、「4：よい（十分満足した・十分成果を得られた）」、「3：だいたいよい（満足した・成果を得られた）」、「2：あまり十分でない（あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった）」、「1：不十分（満足しなかった・成果を得られなかった）」の基準から該当するものを受講者に選択回答してもらった。また、評価については評価基準を段階で示し、わかりやすくなるように評価書を工夫した。評価は「4：よい」を4点、「3：だいたいよい」を3点、「2：あまり十分でない」を2点、「1：不十分」を1点として項目ごとに平均値と標準偏差を求めた。更に本年度は全講習のオンデマンド配信に伴い、オンライン・オンデマンド講習についての項目をⅢ-2とⅣの自由記述に設けた。

3. 結果

3-1. 必修講習、選択必修講習および選択講習における受講者評価の平均値

表1に本年度の受講者全体、必修講習受講者、選択必修講習受講者および選択講習受講者による評価項目Ⅰ-1からⅢ-2までの全13項目の平均値を示す。それぞれの受講者による平均値はほぼ3.6点程度、項目別においても3.4点以上で（表1）、評価点は良かった。昨年に比べ大きな変化は見られなかった。また、標準偏差は0.49~0.59程度であり、評価にばらつきは見られなかった。これは昨年に比べ0.05程度低い値になっており、よりばらつきが無くなったと言える。

表 1 必修講習受講者，選択必修講習受講者および選択講習受講者の受講者評価における各評価項目の平均値

	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	I-6	II-1	II-2	II-3	II-4	II-5	III-1	III-2
必修	3.55	3.59	3.43	3.53	3.54	3.56	3.58	3.59	3.51	3.53	3.55	3.54	3.50
選択必修	3.62	3.64	3.47	3.61	3.51	3.60	3.60	3.54	3.57	3.61	3.58	3.54	3.5
選択	3.52	3.67	3.52	3.63	3.56	3.61	3.56	3.48	3.59	3.64	3.58	3.54	3.50

3-2. オンライン講習（オンデマンド配信）に対する評価と課題

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため，全講習のオンデマンド配信で行った。これに伴い、オンライン・オンデマンド講習についての項目を III-2 と IV の自由記述に設けた。III-2 の項目における平均値は 3.5 程度と十分な値であったといえる。また、自由記述の欄ではオンデマンド配信に対し「自由な時間に受講できる」「自分のペースでできる」「繰り返し視聴できる」「遠方から受講できるので助かった」といった肯定的な意見が多数見られた。一方で「余計に時間がかかった」「PC の画面を見続けることで疲れた」「動画の長さを工夫してほしい」等の意見も見られ、今後の課題となった。

受講評価書・自由記述

三重大大学教育学部 市川 俊輔

毎年、免許状更新講習では受講者全員に受講した講習と講習全般について、自由記述欄を含む受講評価書に記入をお願いしている。寄せられた意見・要望等は、次年度以降の講習をより充実したものにしていくなため活用させて頂いている。ここでは受講評価書の自由記述欄の記入内容をもとに令和2年度の更新講習を振り返る。講習については必修講習、選択必修講習、選択講習の3種類に分けて検討し、運営面については全体の意見をまとめたものを掲載する。なお自由記述のデータは必修講習300件以上、選択必修講習230件以上、選択講習590件以上に及んでいるため以下の内容はその一部である。コメント中の個人情報や、講習が特定されるようなものに関しては、一部表現を変更していることをご了承いただきたい。

「必修講習内容・方法」についてのコメント

- ・理論、法律から事例まで理解しやすくとても参考になりました。現場において役に立てて行きたいと思います。資料も整理されており理解の助けになりました。
- ・教師の仕事の実態とか「学校の先生」の仕事のイメージとか教師の悩み・不満などデータをのせてもらってよくわかった。
- ・改めて主体的、対話的で深い学びとは何かと再確認できたように思う。教育格差の認識がこれまで自分の中で考えていた視点とは少し違っていてそれもさらに勉強になった。
- ・合理的配慮が必要な子どもたちへの支援の仕方について学ぶ事が出来て良かったです。
- ・講習内で教えていただいた、他国のICT事情をなぜもっと日本は取り入れないのか？と、とても勉強になったと共に、現状も鑑みて、もっと声を上げていくべきだと感じました。現在校(三重県立名張青峰高等学校)では一人一台タブレット貸与や、全教室電子黒板化をしており、立ち上げから関わっているため、より、専門職の必要性や、専門の部署の必要性が強く感じられ、どんどん進めていくべきであると、新しい物を得たと共に、力にもなったと思います。ありがとうございました。
- ・アメリカやドイツの中学校、幼稚園の教育の様子をたくさん写真を使って紹介して下さったのが、様子がよくわかった良かったです。デジタルストーリーテリングの作品例の紹介も良かったです。特に教育実習生の物が、自分もいろいろ工夫して子どもに接していかなければと、初心を思い出しました。デジタルストーリーテリングを自分も作ってみたいと思いました。
- ・イエナプラン教育について学べたので良かったです。昔から日本の教育を受け、教員になってからもそのままのイメージでやってきたので、異学年の集団で活動するなんてことは全く考えの及ばないところでした。「てつがく」と対話の共通性にも気付けたので良かった。
- ・自分は保育士のため、この講習を受けることで、学校の状況を知ることができた。保育士、教師、子ども達に関わる内容は違うが、子どもの発達・成長手助けしていく点では同じで、子どもの背景を考え、要因を見極め、試行錯誤していく点では同じだと思いました。
- ・障がいのある子どもの過去から今の現状を知り、改めて自分自身が保育者という立場から、これ

からどういったことがたいせつであるかを改めて考える機会となった。又、教員の働き方改革は、保育士も同様で、働きやすい環境とは、またいかに、子ども一人ひとりをたいせつに見（観）でいくかも考える機会となった。

- ・法の高い理念と現実の間で、自分の教育実践の中で何をしていくかということを強く考えさせられました。
- ・教師の働き方改革については現場でも話が出ています。実際にどのようなことに取り組んでいくとよいかがよくわかりました。教員の観、省察については具体的な内容を挙げていただくとわかりやすいです。
- ・私が学生時代だった 20 数年前はノーマライゼーションまでが障害児学習を進める上で大切な事だったと記憶します。その頃から理想としてはインクルーシブ教育の考えは漠然とあったのですが、インクルーシブ教育システムなどはそれ程一般的でなかった様に記憶します。今回学び直す事で 20 数年間の人生経験や、社会の変様などから新たに気づく事、違いなどを実感を持って知り、身につける事が出来たと思います。ありがとうございました。
- ・イエナプラン教育の原則が少しはわかった気がします。しかしこのプランの問題点はまったくないのでしょいか。それもふくめて教えてもらうともっと理解できる気がしました。
- ・「自分にはいいところがある」と自信を持って言える子どもを一人でも増やせるように毎日毎日の学校生活の中で心がけようと思いました。
- ・経験年数が高くなっている教員への思い込みを改善させるための研修にもなりとてもよかったです。常に新しいものに触れていなければなりません。
- ・考える時間があったり、動画を見る時間があってオンライン講習の場合、PC の前で話を聞くだけのスタイルになりがちだが、メリハリがあって飽きずに受講できた。一つあるとすると、参考にしたいので考える時間の内容を（他の先生が何をしているか等）共有したかった。ありがとうございました。
- ・ペーパーテストでは測れない学力をどのように評価しているのか。海外の例を知りたい。具体的に教員はどんな言葉をかけているのか？逆に海外の学校の問題を知りたい。
- ・海外の幼稚園教育の紹介がもっとあれば嬉しいと思いました。
- ・アメリカの Teaching owner, Learning Fun に置かれている教材をくわしくもっと見たいです。今、効果的なものがあれば使いたいです。外国（アメリカ、ドイツ）での教育姿勢や教育のしかた、何を大切に考えているかがよく分かり、日本でも取り入れるべきもの、そうでないものが分かりました。時代の変遷による教育の変化が分かりました。現代の流行と不易のバランスをいかにとるかがむずかしいと感じました。
- ・私たちは、現場で目の前の子どもたちのために時間の使い方を工夫しながらも日々の教育をより豊かなものにしよう、必死です。そんな私たちのために義務付けられている免許更新。せっかく学ぶ機会なので、もっと子どもたちにかえすことのできるものにしてほしい。
- ・部分的にはどこかで聞いた内容に思えますが全体としてはまったくの別物になっていて気が抜けない講習でした。（他業種の人の話や書籍等で聞いたり読んだりした部分?かもしれません）また、3S カード部分に関しては対面、グループワークを実際に行ってみたい部分ではありました。

「選択必修講習内容・方法」についてのコメント

- ・心理学と学習がつながっていくのが、非常に興味深かったです。
- ・1つの動画につき40分で8本載せてくださっていたが、ポイントが絞られ見やすかった。また丁寧に解説していただきよかった。
- ・講習に関する参考になるような新書などの紹介があると良かった。事後に読んでみたら、更に良い機会になるから。
- ・協動的アクティブラーニングについての意義や技法についてよく理解でき、今後の実践に活かしたいと思いました。
- ・学習心理学という普段はあまり考えないプロセスで自分の実践をふり返ることができた。
- ・アクティブラーニングの理論と実践についてわかりやすくご説明いただき、早速明日からの授業にいかしていきたいと思う内容でした。ありがとうございました。
- ・幼児教育、保育の「学び直し」「新しい知識を得る」という点において非常に有意義で学びを楽しむ事の出来る時間でした。ありがとうございました。
- ・とても興味深い内容であり、わかりやすい内容でした。日々の保育において「事務主義、管理主義保育」をしてしまう保育士さん達をみて「そうではないよ。無駄に思えることこそ大切なんだよ」と思いました。保育者の思い通りに子ども達を動かすことに躍起にならず、子ども達が主体的に、そして保育者と子どもの間に対話が生まれるように、ということを先生方に伝えていきたいと思っています(現在、保育主任であるので)
- ・新要領、指針に改訂された意味が今回の講習により改めて理解できた。今回の講習を受け、自分の保育を思い返した時、自分の保育がどうであったのか、自分の考えを押しつけてしまっていたのではないかと反省する事も出来、今後の仕事に大いに活かせる講習になりました。
- ・発達障害の新たな知識を得られ、具体的な場面もあげていただいたのでイメージしやすかった
- ・それぞれの障害について詳しく教えて頂き、特に、発達性ディスレクシアは、知らなかったので勉強になりました。DSM-5の新しい定義についてもわかり、今後、舎生とのかかわりや保護者への対応を、より良くしていきたいと思いました。
- ・ADHD・自閉症スペクトラム・発達性ディスレクシアの理解と対応についてなど、どれもこれも学び多いもので奥深い内容でした。と同時に、自閉症については、私が昔に学んだものとは概念定義が変わり、やはり、日々最新の情報を学んでいくことの必要性を感じました。学校に行きたくても行けない・不登校の子どもたちが将来自分らしく生きていけるように、学校は・その本人は・もちろん保護者を支え、担任だけでなく、私学校として時には専門的知識を持つ講師に色々なアドバイスを受け、取り組んでいく事の必要性を感じました。
- ・共同注視と表象機能→ことばの発達についてわかりやすく映像と共に理解が深まった。子育て中なので共感できることがあり、納得できた。
- ・不登校などについてはあまり分からない・知らないことも多かったが、勉強になった。保育園・幼稚園からの小学校への連携または、援助が必要な子への継続した対応が重要になってくると改めて感じる事ができた。
- ・医学的な面という今までと少し異なる視点から見ることができ良かった。多様な面から見て考えられるようにしていきたいと思う。

- ・発達障がい、ADHD など言葉はなんとなく知ってるけど、深いところまでは知らずにいたので、とてもいい勉強になりました。昔よりも該当生徒が増えてきている気もするし、授業時は IT や支援員なしもほとんどなので、しっかり対応できるようにしていきたいので、パニックを起こした時のクールダウン、離席以外にもよい方法があれば知りたいなと思いました。(話をそらす方がいいのか 1 人にさせるのがいいのか)
- ・たくさんのためになるおすすめ動画を紹介していただいたので、とても勉強になりました。子どもたちにとって、楽しんで参加する、また小学校は中学校につなぐため、英語嫌いにならないように授業づくりをしていきたいと思いました。
- ・習得論を実際どのようにつかっていくか、授業を体験したり、実践例をたくさん紹介していただいたり、わかりやすかったです。YouTube の紹介がすぐに使えるのでよかったです。
- ・たくさん動画を取り入れ、子どもたちの興味をひきつけながら授業するとよいと学びました。小学校では、書くことよりも、音声をきいてどんどん発音してみることを大切にしたいと感じました。
- ・”聴く” ということの大切さを改めて学べた気がしました。
オンラインでも学習効果が上がるように構成して頂いてありました。
- ・難しいかもしれませんが発達障害のある子どもに実際に対応している映像があればより分かりやすいと思いました。この対応が講義で説明した、この対応の例ですなどと解説があればよりイメージがわきやすいです。
- ・問題行動に対する対応の仕方が具体的で分かりやすかったです。資料が見やすく今後も活用したいと思いました。
- ・実践例、演習があってよかった Moodle で参加してことで、他の受講者とつながれた（ネット上ですが）のはよかった。(オンラインで全て 1 人で完結していたので)
- ・あらためて、今後の学校教育の現場では、ICT の必要が大きいと感じました。臆することなく私自身ももっともっと使っていけないといけないとも感じました。
- ・キャリア教育について「基礎的・汎用的能力」の 4 つの能力が大切だということがわかったので、それを高めるための教育をこれから行っていきたい。
- ・中学校教員であることから、高等学校のキャリア教育の実践や具体的な目標をほとんど知らなかったが、求めているものは変わらないと感じた。また実社会に出ていくことが近いことから、よりインターンシップなどは現実味を帯びているとも感じた。
- ・新学習指導要領実施となり、タイムリーな内容でよかったです。特に今年度アクティブラーニングに関わる発表会を控えており、大変参考になりました。
- ・子どもたちの現状や家庭環境、教員に期待されていること等を知ることが出来ました。教員はカウンセリングスキルをもつべきかなと、改めて感じました。
- ・事業計画をたてる課題は面白かった。教員とは別の視点でいろいろ考えることができた。
- ・”キャリア教育”と言われてけっこう時間はたちましたが、常に「本当に子ども達の生きる力になっているのか？」子ども達の「社会的、経済的自立」につながっているのかと不安に思いながらまわりの学校に学んで実践をつづけてきました。今回の講習はとても新鮮でもう一度 1 から実践してみようと思いました。

「選択講習内容・方法」についてのコメント

- ・鑑賞の授業は私自身どのようにして授業を組み立てていけば、子どもたちの学びになっていくのかなやんでいたのととても勉強になりました。ありがとうございます。
- ・とてもわかりやすく、最後まで興味深く学ばせていただきました。音楽の指導が初心者の私でも、頑張ってみよう！と思えるような初歩的な内容から、質の高い授業の作り方まで、色々な立場の教員が学びを得られる内容だったと思います。
- ・ニュージーランド等、他国での取りくみとその国が置かれている状況から学ぶことが多々ありました。その上で、本国日本の現在の課題について知見が得られました。家での不具合を「購入する」「自ら直す」のちがいの大きさは大きいと感じました。
- ・あそびの意味・重要性を改めて知ることができました。
- ・運動やあそびは、子どもの体づくりだけでなく、これから、社会に対応していくにあたって、たいせつなもの(コミュニケーション力や、その時々で対応していく力など)を身につけていけるものであることを改めて感じ、子ども一人ひとりの状況に応じていろんな活動をねらいをもって、提供していきたいと思った。
- ・普段、高校の国語科の教員間ではなかなか学び合えないような、研究者ならではの内容の講習で、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・豊富な文献資料の検討からひとつの仮説、結論を導き出していくという、研究の醍醐味を思い出させていただけただ講習でした。検証をおろそかにして、つい想像や、時に「うそ」を自分は生徒に教えていたのではないかと反省に、ひとつひとつ丁寧な授業を目指そうと思いました。
- ・自律性や有能感、興味価値や有用性価値などの動機づけ要因を意識して、授業を工夫していきたいと思いました。高すぎる基準を設けないようにしたり、興味を持って取り組める学習にしたりすることは、すぐにできることなので、取り入れていきたいと思いました。
- ・保育士の私には授業内容という想像がつきにくかったですが、子どもたちのわくわく感を育てられるように子どもたちと一緒に喜び、楽しむ中で、文字や数字など小学校で学ぶものに興味をもてるような環境をつくっていききたいと思いました。
- ・ほんの数年のうちに ICT の環境がガラリと変化しました。教材作成用のツールに関しても大きな進歩を感じました。この動きを学校にいてはなかなか感じとれないので、これからも情報の発信をおねがいしたいと思います。
- ・シミュレーションを用いて授業を作りたいと考えていましたがなかなかよいシミュレーションに出会えていなかったのが今回、使い方、示し方をていねいに教えていただき大変参考になりました。
- ・普段気になっていながら実際の授業ではなかなか扱えない(扱う事に慣れてはいない)内容をじっくり講義していただいた。「語り手」「表現」「構造」は中学や大学では教えられているのに高校ではトーンダウンして内容主義に偏っている(自分だけ?)のではないかと反省し、もっと立体的な授業を目指そうと思った。
- ・新学習指導要領での評価基準の設定の仕方などがよく理解できました。紹介されていたビデオやワークシートなど参考にさせていただきたいと思います。「逆向きの設計論」については設計するのが難しかったです。講座を受けたことで色々勉強しないといけないと改めて感じました。

- ・促音、拗音、長音は学習の初期段階では表記が難しく、どのような指導をするのか迷うが、講習を受けて、指導法を知ることができ、これからの指導に生かすことができそうだった。実際の指導の進め方のビデオもわかりやすかった。
- ・愛着障がいと発達障がいのみきわめは、大変むづかしい事や愛着形成の重要性を強く感じました。愛着形成が8か月頃までになされることは、おおきなおどろきでした。私の中で愛着障害のとらえ方が大きく変化する貴重な講習になりました。
- ・子どもの姿を見て「なにか気になる・・・」と感じていた事に例がそってとてもわかりやすかった。もっと学ばなければいけないと思った。「知っているつもり」に気をつけて保護者対応をしていこうと思う。
- ・東紀州のさまざまなことに対してさらに興味を持ち地域の教育に尽力したいと考えた。
- ・保育園で勤務しています。食物アレルギー児が年々増加している中でおやつ・給時のかわりについて見直すきっかけとなりました。又、保護者へのかかわりについても再認識し、保護者の心に寄り添いながら関係を築いていきたいと思います。
- ・オンライン講習では実技（AEDの使い方や胸骨圧迫のやり方）の説明がしにくかったと思いますが、人形を使い、講師の先生はていねいに説明して下さいました。難解な医学分野の講義を資料とにわかりやすく背説明していただいていたいました。医療の分野には元々興味がありましたので講義にひきこまれました。
- ・世界の教育事情を知ることができてよかった。教育にはその国々の風土や文化が深くむすびついているんだと改めて感じた。日本の教育が遅れているやら批判的な声もあるが、長い歴史をへて、試行錯誤をしながらここまでできた。日本のすばらしさも気づくことができてよかった。
- ・自分が卒業した高校の取り組みの結果が講習に取り入れられていて親しみをもって受講できた。実際、園でも野菜嫌いの幼児がとても多いので野菜の栽培やレシピ、栄養、病気の効能など、学べて、とても良かったです。
- ・いろいろなアイデアがあってよかった。（ゲームやアクティビティ等）今は中学生を教えているが、ゲームなど学んだことを取り入れようと思った。
- ・仕事面だけではなく。日常的にも大切な食事について学ぶ事が多くあった。野菜の切り方や調理法によって苦さが軽減されて子どもが食べやすくする工夫など、子どもだけでなく保護者にも食の大切さを伝えられるような事で、今後に役立てて行きたいです。
- ・10年ぶりの〇〇先生の講習でした。今年度でご退任ということもあり、選択でき、良かったです。いつもながら、信念をもってME教育の重要性を語られる姿に、こちらも良い緊張感をもって受講させていただきました。ありがとうございました。
- ・私が教員免許をとった頃には無かった講義なので、まずは理論を理解するのに何度も動画を見返しました。おそらくこの講習は、対面講義で実際に活動を通してきくとより効果的で、実践に使えるかなと思いました。（特に学生の頃、勉強してこなかった分野なので）でも新しい知識を獲得できる良い機会となった。ありがとうございました。
- ・特に評価については、現場も大混乱しているので、もっと詳しく聞きたいと思った。
- ・具体的な英語活動が紹介されていてわかりやすかった。

「オンライン講習」についてのコメント

- ・見直したいところを繰り返し見ることができてよかった。
- ・オンラインはパソコン操作ができないとむずかしい（講座うけれなかった）やはり対面がいい。あと、自宅にパソコンとプリンターが必要。あと、資料が多すぎる。画像（写真）がまっくろなものもある。
- ・好きな時に動画が見れたので良かった。
- ・受講期間がもう少し長ければよかったと思いました。10～11月、いろんな行事が重なったので。（個人的な意見ですが）
- ・オンラインということで時間に余裕があるため、始めるのが遅くなってしまった。
- ・家庭で取り組むため、自宅に子どもがいるとなかなか集中して出来なかった。
- ・来年度は対面式とオンラインの両方を選択肢に入れてほしい。
- ・ズームなどとは異なり、自分の都合に合わせて受講ができて、大変ありがたかった。動画も扱いやすかった。
- ・〇〇先生の動画は、説明がとても聞きやすく、ファイルも読みやすくよかったです。
- ・聞く時間ばかりなので、メリハリがないのが残念。いつでも見られるのは便利です。
- ・試験でワード etc での回答だと助かりました。手書きでたくさん記述するのは骨が折れました。。。
- ・講義についていけるのか不安があったが、資料があることで受講しやすく、制約されることがなく、自分のタイミングで受講できるので、助かった。（子どもが小さいので）
- ・やはりオンラインは無理です。講師はパソコンもっていません。サポート必要なため今後は対面でうけます。3講義もうしこみましたが2講義しかうけれませんでした。プリントアウトする資料が多すぎる。写真等はまっくらになってわからない。
- ・家で時間を見つけて受講できましたが、1日の対面式の方が集中して学べたかと思います。
- ・質問ができないので講師の意図することがわかりにくい。
- ・映像が含まれていたもので、広い場所で受けるよりも見やすくて良かったです。
- ・他園・他校等に勤める先生方と話す機会がなかったことは残念ですが、自分のペースで講習をすすめることができ良かった。
- ・自分のタイミングで聞けるということ、三重の南部なので、移動せずに聞けるということはとても良かったです。できれば、このオンラインで講習をこれからも受けられるとありがたいです。
- ・仕事と育児で忙しい中自分のペースで進めることができて良かった。もう一度聴いたり見たりしたい内容は何度も戻ったり進めることができてより理解を深めることができた。資料を事前に郵送してもらえると良かった。（自宅にプリンターがないため）
- ・交通費がかからない、日時のしびりがないので、とても良かったです。
- ・全部の講習に言えることだが、通常の授業として聞く分には、雑談等もあった方が聞きやすいし、気分転換にも成るだろうが、オンラインとなると、必要な点のみ端的に説明してもらわないと正直しんどい物がある、と学びに繋がった。高校等でもオンラインが広がる可能性も考えると、そういう授業展開や、動画の編をも頭に入れた方法を考えていく必要があるな、と感じました。ただ、そうなると制作者の負担が…。
- ・遠縁の方や役職のある者、単数職種者など、どのような時期でも有休が取りにくい者には有効だ

と考える。

- ・ 動画閲覧中に講師の動きから発せられる音でなく、マイク(カメラ撮影者)が拾う音が少々耳障りで集中しづらかったです。
- ・ 講習受講期間が、長期休業中だと、もう少しよかった。
- ・ 意見交換ができなかったのが、残念でした。
- ・ 講習中指示される YOUTUBE のリンクなども貼っていただけるとすぐ視聴できると思います。
- ・ やはり、実際に会場で講習を受けたほうが、こちらモチベーションが上がるのでよいかと思いました。来年、実技を受けたいのですが、どうなるのか心配。
- ・ 費用と時間の節約になった。(働き方改革)充分満足できる。
- ・ 私の PC 自体の理由、IT リテラシーが低いことが理由かもしれないが、動画を見て少し前にもう一度戻りたい際うまくできず非効率だった為操作性をあげて欲しい。(15 秒ボタン YouTube のように)子育て中の私にとって自分のペースや時間、都合で勉強できとても良かった。
- ・ はじめはオンラインで、行かずに済むので楽かと思いましたが、「いつでも見れる」と思うと「いつでもいい」になってしまって(まあそこは自分の気の持ちようなのですが)途中からペースダウンしてしまい大変でした。また、動画を分けて見ると集中力が保てなかったり、課題もすぐに勢いで書かないと、なかなか書けなかったりで大変でした。秋の様々な行事もある時期で、この期間に5つの受講はとてもきつく失敗したなと思いました。
- ・ ありがとうございます。オンラインに疎い当方にとってありがたいご案内をそれも幾度もしていただきました。
- ・ 3S カード部分はオンライン講習に向いていない様に思えます「ICT 学習利用」で用いた moodle を利用した方が何かできた様な気がします。
- ・ 各家庭で印刷となるとインク、紙などの負担が少し気になった。(紙で残すと後から見返すことができるという利点があり、ありがたいのだが・・・)ページ数が多い講習はとくにかんじた。
- ・ 動画の中で、ポイントもない中で「こっち」「そっち」の指示語があり、分からなくなるところがあった。
- ・ オンラインだと聞きそびれたところを繰り返して見るのができた。質問してみたいこともありましたが、メールを送るほどでもないことでちょっと残念でした。
- ・ 仕事をしながら受講するのはとても大変なのでオンラインは自分のペースで受けられるためとても良かった。
- ・ 直接受講したかったのですが、人数制限で外れておりました。オンラインになり受講できて良かったです。
- ・ 結果的にレポート作るのに時間がかかりました。オンラインであれば私権はマークシート等のものでもいいのかなと思いました。
- ・ 1本の動画が長く感じました。くり返し必要なところを確認したいときに、思う所を再生するのが難しかったです。
- ・ はじめは不安もありましたが、ここまできてホッとしています。
- ・ 対面の方式がよいと思います。オンラインでは集中できない。

「運営面」についてのコメント

- ・新型コロナウイルスが流行している状況なので、オンライン授業が出来て良かったです。
- ・音楽等専門の受け入れ人数ふやして下さい。
- ・学校行事や成績処理、クラブの協会、中体連の大会に丁度重なっていた 1 ヶ月間で受講生としては、大変厳しい時期でした。
- ・理科実験の講座に申し込みましたが中止になり、残念に感じています。簡単なものでよいので、授業で使える実験を動画配信していただきたいです。
- ・申し込みの際、16:00-の受付は仕事をしながらだと 1 番忙しい時間に途中でぬけて申し込みしなければならなかった。時間を、もう少し遅くする(17:00 など)などしてほしい。
- ・PDF ファイルは、音声のスクリーンリーダーでは読めないなので、テキストファイルを準備してほしい。
- ・また次回の講習も三重大で受けてたいです。内容が有意義でした。定員を増やして下さい。(受講しやすいように)
- ・長期休業中に講習ができると、有難かったです。
- ・オンライン講習でありながら履習認定試験の答案を「手書き」しなければならない点に不自然さを感じます。制度上の制約であるならば制度そのものの改善をお願いしたいです。
- ・受付開始時の希望者が殺到する状況(早い者勝ち風になる)を改善してほしい。
- ・聞き逃したこと、見逃したことを何度でもくり返し視聴できたことが良かったです。
- ・準備ご苦労様でした。丁寧に対応して頂きありがとうございます。今後もオンライン講習で良いと思います。
- ・受講にむけての案内、わかりやすかったです。
- ・コロナウィルスにより、オンライン講習での受講ありがとうございます。更新の機会を作って頂きありがとうございます。手続き対応等とても大変かと思います。もし今後も同様な受講がありましたら、本人負担(希望者)(印刷・郵送代金)で書類印刷をして頂ければ嬉しいです。
- ・教員向けの話も多かったので少し理解、現場の状況を想像することが難しいこともあった。保育教諭に向けたものももう少しあると嬉しいと思う。
- ・様々な面において丁寧に対応していただいていたと感じる。講師の先生におかれても同じですが学務の先生方も大変お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・ボールペンではなく鉛筆でとのことであつたのでボールペンで書いていたのを鉛筆で書き直したが何日がたってからボールペンでも良いとかわっていたため早く連絡していただくか、はじめからどちらでも良いようにしてほしい。
- ・各書類のやり取りを郵送ではなく、メール等で全てやってほしい。切手を用意する等が手間である。
- ・三重大の講習内容は、内容、システムともに充実し、受講者にとって、魅力的なものでした。講師の先生方の、今学ぶべき内容のレクチャーがたいへん良かったです。どうせ更新講習を受けねばならないなら、意義あるものを、と思います。その点でも、本当に良かったです。ありがとうございました
- ・オンライン授業の場合、定員や、他の授業と日にちが重なることを、心配せず、受講したい授業を

受けられます。来年度以降も、例えば「5つの講習のうち、2つはオンラインの講習でも良い」など、としていただけると、助かります。

- ・丁寧に連絡を何回もしていただいたり、方法も細かく記載していただいてオンラインに対しての不安もなく受講することができた。
- ・たくさんの動画を見るので、可能であれば一つの動画の中で区切りのある構成にして頂けると疲れにくくなると思います。レポートも全部郵送の為労力もかかる上到着の有無の心配がある為速達書留を使用するしかないので良い方法を考案してください。早くコロナが終息し、フェイスツーフェイスの講義が可能になることを願います。
- ・今年度は、コロナで講習やその申し込みについて随時変更があり、ばたばたしましたが、メールやホームページで的確でわかりやすく指示があり、急であったにもかかわらず、最終的にオンラインで講習が出来て良かったです。電話で質問した際にもていねいに対応していただきました。他の更新講習に比べ、講座のバリエーションが多く、とにかく規定の数だけ受けなければという義務感より興味ある、おもしろそうで聞いてみたいと思うものを取り取ることができました。ただ、オンラインのため、開ける講座の数が減ってしまったのは残念でした。
- ・Moodle3.5の活用はとてもいい刺激になりました。一緒に学んでいる仲間の作品を観ることが出来て参考になりました。短い間でしたが、仲間がいるという事を実感でき励みになりましたし、モチベーションも保つことが出来ました。ありがとうございました。
- ・オンラインでの開講が可能か不可能かで選択肢が減っていたと思うので、むずかしいとは思いますが人数制限をする必要が無くなった分全部開講してほしかったです。
- ・受講してみようと興味を持った講座ではあったが、受講するために費やす時間を考えた試験になるように考えて頂きたいです。申し込む前に、試験の行われ方についても説明があれば、受講しやすいと思います。
- ・レポートは、パソコン入力で、メールにて提出できると良い。
- ・三重大学の講習は多彩で自分の課題や興味、関心にジャストミートする授業を選べるところが素晴らしいと思います。私のうけた講習はすべて内容が充実しており最新の知見を得られたと感じています。一連の講習で感銘を受けたのは講師陣の対象に対する謙虚で誠実な姿勢です。教員として自らを振り返ることができました。
- ・今回東紀州のサテライト校舎での活動をはじめて詳しく知りました。三重県に勤務する教員が学びやすいようにしていただいていることうれしく思います。また三重の子どもたちの学びの支援もしていただいているのだと感じました。三重にある国立大としての役割として大切なことだと思います。ありがとうございました。
- ・評価書をもう少し簡素化してほしい。Ⅶ、Ⅷはどの講習も同じだが、5枚+講師の先生が2人いると、それぞれに評価書があるとかかなりの枚数になるため、この2項目だけでも別紙1枚にしてほしい。
- ・大学での講習時、場所がわかりにくく（地図の場所です）係のかたに聞くと逆方向を教えられ、遅刻しそうになりました。あの地図わかりにくいです。その部分のみ残念でした。
- ・来年度はオンラインのみの講習と、対面講習別々に用意してくれるといいと思います。オンラインの講習では少しわかりにくい部分があったと思います。

5 2017～2020 年度における受講評価の詳細

教育学部 大坪慶之

(1) のべ受講者について

本項では、2017 年度から 2020 年度におけるのべ受講者について概観する。

過去 4 年間ににおける受講年度ごとの必修講習、選択必修講習および選択講習におけるのべ受講者数の推移を示した〔表 1〕において、今年度は、新型コロナウイルスの影響で急遽オンデマンドによる開講となったため、昨年度までと比べて受講のべ数が大幅に減少している。講習別に見ても、必修・選択必修・選択の全てにおいて半数以下となっている。

受講年度ごとの各受講対象区分におけるのべ受講者数を示した〔表 2〕では、今年度、全ての区分において低下しており、特に小・中・高等学校に勤務している者の減少幅が大きくなっている。また、割合が変化している理由については今後詳細な検討が必要だが、一つの可能性として、オンデマンドにより比較的自由に受講時間を設定できることを利用して、複数校種の講習を受けた層が一定程度いたことが想定される。

年齢別ののべ受講者数を示した〔表 3〕では、今年度は 60 代の比率が 11%増加し、30 代が 20%減少している一方で、残りの世代は横ばいである。これに関しても今後検証する必要があるが、30 代については、来年度の更新でも可能な受講生が、次回の対面講習を期待して本年度の受講を見送った可能性が考えられる。

連絡先都道府県別ののべ受講者数を示した〔表 4〕では、今年度は総数の減少にともなって三重県の受講者が 1,770 名減り、減少数の大半を占めている。県外の受講者に目を向けると、近隣の府県の受講者数が減る一方で、兵庫・東京といった遠方の都県の受講者が増えるなど、オンデマンドにした影響が表れていると考えられる。

(2) 実受講者について

次に、2017 年度から 2020 年度における実受講者について概観する。

2016 年度から 2020 年度までの受講年度ごとの実受講者数を示した〔表 5〕において、今年度は、のべ受講者数と同じく前年比で 50%以上の落ち込みとなっている。これは、過去 4 年間ににおいて実受講者数は最少、同減少幅は最大であることを示している。

受講年度ごとの各受講対象区分における実受講者数を示した〔表 6〕では、今年度は全体的に大きく減少するなかで、高等学校に勤務している者と教員勤務経験者の落ち込みが比較的少なく、割合も増加していることがわかる。

年齢別の実受講者数を示した〔表 7〕では、やはり今年度はのべ受講者数と同じく 30 代が実数・割合ともに大幅に減少している。また 40 代と 50 代は、実数こそ減っているが割合は微増、60 代に至っては実数・割合ともに増加している。

連絡先都道府県別の実受講者数を示した〔表 8〕では、今年度は総数の減少にともなって三重県の受講者数が過去 4 年で最少となっている。他府県でも同様の状況であり、受講方法を対面からオンデマンドへ急遽変更せざるをえなくなった影響が、ここにも表れていると思われる。

最後に、〔表9〕では、必修講習と選択講習をどのような組み合わせで受講したかという「受講スタイル」の変化を年度ごとにまとめている。こちらは数こそ減っているものの、割合は例年と同じで「必修＋選択×3」が最も多い。このことから、受講者は年度内に三重大学ですべての単位を取り切れるように受講登録する傾向が強かったとがわかる。そうした動向を受け、来年度のオンデマンド開講においても、夏休みに複数の講座をまとめて受けられるようにするなど、多忙な教育現場のニーズに合わせた日程の組み方を考えてみてもよいかもしれない。

表1 受講年度ごとの受講のべ数							
受講年度	必修	選択必修	選択	合計			
2017年度	624	628	1,850	3,102			
2018年度	998	935	2,900	4,833			
2019年度	666	703	1,964	3,333			
2020年度	315	323	885	1,523			

表2 受講年度ごとの各受講対象者区分における受講のべ数												
受講年度		幼稚園に 勤務して いる者	小学校に 勤務して いる者	中学校に 勤務して いる者	高等学校に 勤務して いる者	特別支援 学校に勤務 している者	中等教育 学校に勤務 している者	教員勤務 経験者	教員として 任命又は 雇用される (見込みのある)者	教員採用 内定者	保育士 (認定こども園及び 認可保育所等に 勤務している者)	その他
2017年度	必修	29	237	123	146	27	0	12	45		69	13
	選択必修	25	226	118	137	28	0	12	38		68	12
	選択	72	676	359	407	85	0	30	120		185	48
	計	126	1139	600	690	140	0	54	203		322	73
	割合	4%	37%	19%	22%	5%	0%	2%	7%		10%	2%
2018年度	必修	66	328	143	133	67	15	19	56		147	12
	選択必修	62	321	136	125	57	14	19	48		131	12
	選択	186	952	404	444	175	35	64	164		401	35
	計	314	1601	683	702	299	64	102	268		679	59
	割合	6%	33%	14%	15%	6%	1%	2%	6%		14%	1%
2019年度	必修	33	192	104	119	36	16	11	45		98	12
	選択必修	32	197	110	125	41	17	10	49		110	12
	選択	91	548	308	359	93	52	40	134		303	36
	計	156	937	522	603	170	85	61	228		511	60
	割合	10%	62%	34%	40%	11%	6%	4%	15%		34%	4%
2020年度	必修	8	94	45	76	17	0	10	20		26	19
	選択必修	9	98	45	76	17	0	10	20		26	22
	選択	17	258	134	219	48	0	24	53		81	51
	計	34	450	224	371	82	0	44	93		133	92
	割合	2%	30%	15%	24%	5%	0%	3%	6%		9%	6%

表3 各受講年度ごとにおける受講年齢別受講のべ数												
		20代		30代	40代	50代	60代	その他				
2017年度	必修			220	197	205						2
	選択必修			214	194	218						2
	選択			657	550	635						8
	計			1091	941	1058						12
	割合			35%	30%	34%						0%
2018年度	必修			546	202	226						11
	選択必修			520	187	211						7
	選択			1545	616	668						30
	計			2611	1005	1105						48
	割合			54%	21%	23%						1%
2019年度	必修	8		324	155	152	27					
	選択必修	9		343	164	160	27					
	選択	21		984	431	448	80					
	計	38		1651	750	760	134					
	割合	1%		50%	23%	23%	4%					
2020年度	必修	5		98	83	80	49					
	選択必修	5		97	87	83	51					
	選択	15		266	233	243	128					
	計	25		461	403	406	228					
	割合	2%		30%	26%	27%	15%					

表4 連絡先都道府県別の受講者のべ数													
		三重県	愛知県	奈良県	京都府	大阪府	滋賀県	兵庫県	岐阜県	神奈川県			
2017年度	必修	600	7	0	5	8	1	0	2	0			
	選択必修	607	8	0	4	5	1	3	0	0			
	選択	1777	17	1	19	14	6	11	1	0			
	計	2984	32	1	28	27	8	14	3	0			
2018年度	必修	935	10	7	4	6	9	4	1	0			
	選択必修	892	8	1	3	7	6	1	1	0			
	選択	2701	48	14	6	23	24	8	5	3			
	計	4528	66	22	13	36	39	13	7	3			
2019年度	必修	666	12	0	1	2	0	0	1	0			
	選択必修	678	9	3	4	2	1	0	1	0			
	選択	1874	37	2	8	13	7	5	5	0			
	計	3218	58	5	13	17	8	5	7	0			
2020年度	必修	303	4	3	3	0	1	0	0	0			
	選択必修	309	5	5	1	0	0	2	0	0			
	選択	836	16	12	1	6	4	7	0	0			
	計	1448	25	20	5	6	5	9	0	0			
		東京都	福井県	和歌山県	静岡県	埼玉県	岡山	山梨	長野	富山			
2017年度	必修	1		0		0							
	選択必修	0		0		0							
	選択	0		1		1							
	計	1		1		1							
2018年度	必修	0		2	1	0			0	0			
	選択必修	0		2	0	1			0	0			
	選択	1		5	1	3			1	1			
	計	1		9	2	4			1	1			
2019年度	必修	0	0	1	0	0	0	0	1	0			
	選択必修	0	0	2	0	0	0	0	0	0			
	選択	1	0	4	2	0	1	1	1	0			
	計	1		7	2	0			2	0			
2020年度	必修	1	0	0	0	0	0	0	0	0			
	選択必修	1	0	0	0	0	0	0	0	0			
	選択	3	0	0	0	0	0	0	0	0			
	計	5	0	0	0	0	0	0	0	0			
		香川	千葉	宮城	大分	その他							
2017年度	必修					0							
	選択必修					0							
	選択					2							
	計					2							
2018年度	必修					4							
	選択必修					2							
	選択					11							
	計					17							
2019年度	必修	0	0	1	1	0							
	選択必修	0	1	1	1	0							
	選択	1	1	0	1	0							
	計	1	2	2	3	0							
2020年度	必修	0	0	0	0	0							
	選択必修	0	0	0	0	0							
	選択	0	0	0	0	0							
	計	0	0	0	0	0							

表5 受講年度ごとの実受講者数											
年度	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		
実受講者数	890		789		1,205		863		404		
註：2年度、3年度にわたって受講している受講者についてもそれぞれの年度でカウントされている。											

表6 受講年度ごとの各受講対象者区分における実受講者数												
受講年度		幼稚園に 勤務して いる者 (保育教諭含む)	小学校に 勤務して いる者	中学校に 勤務して いる者	高等学校に 勤務して いる者	特別支援 学校に勤務 している者	中等教育 学校に勤務 している者	教員勤務 経験者	教員として 任命又は 雇用される (見込みのある)者	教員採用 内定者	保育士 (認定こども園及び 認可保育所等に 勤務している者)	その他
2017年度		38	233	151	160	35	0	22	62		90	20
	割合	4%	26%	17%	18%	4%	0%	2%	7%		10%	2%
2018年度		78	375	179	198	74	19	70	166		16	30
	割合	6%	31%	15%	16%	6%	2%	6%	14%		1%	2%
2019年度		38	239	137	159	45	21	18	57		134	15
	割合	4%	28%	16%	18%	5%	2%	2%	7%		16%	2%
2020年度		12	116	62	104	21	0	12	22		30	25
	割合	3%	29%	15%	26%	5%	0%	4%	5%		7%	6%

註：システム改修に伴い2016年度より集計の区分を一部変更。
①「教員として任命又は雇用される（見込みのある）者」と「教員採用内定者」を合わせた区分に変更。②保育士の区分を追加。（それより以前はそれぞれ該当する区分に含む。）

表7 各受講年度における受講年齢別実受講者数													
			20代		30代		40代		50代		60代		その他
2017年度					275		247		263				4
	割合				35%		31%		33%				1%
2018年度					658		255		278				14
	割合				55%		21%		23%				1%
2019年度			9		443		194		184		31		
	割合		1%		51%		22%		21%		4%		
2020年度			5		124		107		110		58		
	割合		1%		31%		27%		27%		14%		

表8 連絡先都道府県別の実受講者数														
		三重県	愛知県	奈良県	京都府	大阪府	滋賀県	兵庫県	岐阜県	福井県	和歌山	静岡県	神奈川県	その他
2017年度		726	13		15	14	4	9	2	0	1	0	0	6
2018年度		1089	30	13	7	18	15	9	3	0	7	1	2	4
2019年度		803	19	3	6	8	5	5	2	0	3	1	0	8
2020年度		373	9	6	4	3	3	5	0	0	0	0	0	1
注：各年度実受講者1名しかいなかった都道府県は「その他」にまとめた。なお、該当する都道府県は2016年度は長崎県、千葉県、石川県、富山県、和歌山県。2017年度は奈良県、埼玉県、東京都、広島県、千葉県、和歌山県。2018年度は東京都、埼玉県、富山県、長野県。2019年度は東京都、岡山県、山梨県、長野県、香川県、千葉県、宮城県、大分県。2020年度は東京都である。														

表9 各年度における受講スタイルごとの実受講者数（下段は各年度の受講者数を100%とした際の割合）											
		必修のみ	選択必修のみ	必修・選択必修	必修・ 選択必修・ 選択×3	選択×1	選択×2	選択×3	その他 (左記以外の組合せ)		
2017年度		21	14	43	483	49	39	25	115		
	割合	3%	2%	5%	61%	6%	5%	3%	15%		
2018年度		29	13	54	718	85	41	42	223		
	割合	2%	1%	4%	60%	7%	3%	3%	19%		
2019年度		14	31	49	513	59	41	23	133		
	割合	2%	4%	6%	59%	7%	5%	3%	15%		
2020年度		11	12	23	225	29	17	13	74		
	割合	3%	3%	6%	56%	7%	4%	3%	18%		

6 講師によるふりかえり

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	菊池 紀彦	記入年月日	2020 年 11 月 29 日
講習の区分	必修講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象 者 と 人 数	受講対象者：全教諭 人数：43 人		
講 習 名	教育の最新事情 1 障がいのある子どもに対する教育支援・教育の動向と教員の子ども観		
講習の目標	「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に基づいて、特別支援教育との関連や、合理的配慮のあり方について概説する。 - 合理的配慮を提供する上で必要とされる子どもたちの認知特性についての知識を得る。		
授業概要 （大まかな流れ）	- 障害者差別解消法について、インクルーシブ教育との関連や、合理的配慮のあり方について概説した。 - 合理的配慮を提供する上で必要とされる子どもたちの認知特性について概説した。		
活用した資料・データ等	スライドショー（keynote、パワーポイント） スライドショーから一部資料を抜粋して受講生に配布 講義動画を作成し、オンデマンド視聴		
講習に関する感想	- 内容（試験等を含む） - オンデマンド講義における映像資料作成が思いのほか大変でした。 - 受講者の表情が見えないなかで、カメラに向かって話をすることの難しさを実感しました。 - それでも、答案用紙から受講者の考えを知ることができたことは一定の成果があったと思います。 - 運営（活用機材、会場、補助員等） - 今般のコロナ禍のなかで、様々な対応をする必要があり、本当に大変だったことと思います。委員の皆様、特に、事務の皆様にはきめ細やかにご対応くださり深く感謝申し上げます。ありがとうございました。 - その他 特にありません		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	菊池 紀彦	記入年月日	2020 年 11 月 29 日
講習の区分	必修講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象 者 と 人 数	受講対象者：全教諭 人数：35 人		
講 習 名	教育の最新事情 3 合理的配慮と障がいのある子どもに対する教育支援		
講習の目標	「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に基づいて、特別支援教育との関連や、合理的配慮のあり方について概説する。 - 障害の重い子どもたちについて概説するとともに、彼らの発達の特徴と心理学的評価について、事例検討を通して教育支援のあり方について理解を深める。		
授業概要 （大まかな流れ）	- 障害者差別解消法について、インクルーシブ教育との関連や、合理的配慮のあり方について概説した。 - 合理的配慮を提供する上で必要とされる子どもたちの認知特性について概説した。 - 重症心身障害児の概説を行い、事例検討のための動画を視聴した。その後、教育支援のあり方についてのグループワークを実施した。		
活用した資料・データ等	スライドショー（keynote、パワーポイント） スライドショーから一部資料を抜粋して受講生に配布 講義動画を作成し、オンデマンド視聴		
講習に関する感想	- 内容（試験等を含む） - オンデマンド講義における映像資料作成が思いのほか大変でした。 - 受講者の表情が見えないなかで、カメラに向かって話をすることの難しさを実感しました。 - それでも、答案用紙から受講者の考えを知ることができたことは一定の成果があったと思います。 - 運営（活用機材、会場、補助員等） - 今般のコロナ禍のなかで、様々な対応をする必要があり、本当に大変だったことと思います。委員の皆様、特に、事務の皆様にはきめ細やかにご対応くださり深く感謝申し上げます。ありがとうございました。 - その他 特にありません		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	伊藤敏子	記入年月日	2020 年 12 月 3 日
講習の区分	必修講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象 者 と 人 数	受講対象者：全教諭 人数：128		
講 習 名	教育の最新事情 7 ―諸外国の事情との比較から―		
講習の目標	1. 確かな学力 ・学ぶ力に関して何に留意が必要であるか、統計等から分析する。 ・その対応としてどのような事例があるかを知る。 2. 豊かな心 ・自己肯定感に関して何に留意が必要であるか、統計等から分析する。 ・その対応としてどのような事例があるかを知り、自らが何を行えるか考える。		
授業概要 （大まかな流れ）	導入：諸外国の事情を踏まえながら日本の教育事情を考えることの意味 第 1 部：「確かな学力」に向けられた教育の最新事情 第 2 部：「豊かな心」に向けられた教育の最新事情 まとめ：教育に求められているもの		
活用した資料・データ等	・PISA ・TIMSS ・全国学力・学習状況調査 ・日本語教育が必要な外国人児童・生徒の受け入れ状況に関する調査 ・TALIS		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・グループ活動のない開講形態で 160 分間の講習を構成することに苦労しました。 ・少ない数の受講者が 20 分の試験時間にもかかわらず（おそらく 1 時間以上解答に要したと思われる）2 枚～3 枚にわたる答案用紙を提出していたので、128 人分の評価に膨大な時間を要しました。試験時間の厳守について何らかの対策が必要では、と思いました。 2) 運営（連絡等） ・すべて丁寧にサポートしていただきました。ありがとうございます。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	中西良文	記入年月日	2020 年 12 月 3 日
講習の区分	選択必修講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象 者 と 人 数	受講対象者：幼小中高特支教諭 人数：13		
講 習 名	学習心理学から考える協同的アクティブラーニング		
講習の目標	次期学習指導要領において、「主体的・対話的で深い学び」、すなわち「アクティブラーニング」が取り上げられているが、この理解を深めるための学習心理学的な知識について学ぶ。また、具体的な方法として重要となる、「協同学習」の技法についても学ぶ。		
授業概要 （大まかな流れ）	主体的・対話的な学びの重要性を実験などを利用して体感する アクティブラーニングの基礎となる学習心理学の基礎知識について理解する ワーキングメモリが弱い子どもの特徴と支援 ビデオをみて、熟達化と記憶システムの関連について理解 ここまでの内容を踏まえ、協同学習の理論と複数の技法について学ぶ		
活用した資料・データ等	複数の協同課題 協同学習の技法の一覧 記憶メカニズムの全体像 ワーキングメモリが弱い子どもの特徴についての資料 将棋の熟達者のビデオ 協同学習の複数の技法に関する資料		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 初めてのオンライン講習、しかもオンデマンドということでどのようなかと思ったが、試験の回答を見る限り、従来から学習成果が落ち込んだというわけではな いかなと考えている。（実際、オンデマンドにすることで、説明の時間を効率化することができ、従来扱えなかったトピックをいくらか増やして扱うことができた。） 次年度以降は質疑応答のやりとりなどができるとよいかもしれない。 2) 運営（連絡等） この大変な状況の中、非常に丁寧な対応をしていただいて感謝しています。 3) その他 320 分の動画を作成するのは、想像を超えた本当に大変なものであった。 できあがったものがそれほどクオリティーの高いものではないかもしれないが、それでも動画撮影の準備（原稿と資料作成）、撮影、編集までを含めると、動画時間の 10 倍程度（以上？）の作成時間がかかった。 そのため、（今年は緊急対応で仕方なかったが今後は）動画作成を補助してくれる という分野に強いスタッフに補助をしていただくか、もしくは、それなりの環境を 整えるだけの金銭的な支援があるとよいと思う。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	永田 成文	記入年月日	2020 年 12 月 4 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択必修講習 選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園、小・中・高等学校・特別支援学校の社会科・総合学習等の担当教員 人数：11(募集は70)		
講習名	世界の生活文化から考える異文化理解学習		
講習の目標	記述、説明、判断の異文化理解学習の段階を意識して、異文化を尊重し、異文化の受容を考えることができるような異文化理解学習を構想できる。		
授業概要 (大まかな流れ)	第1講で多文化共生を視野に入れた異文化理解とはなにか、第2講で異文化体験を基にした教材にはどのようなものがあるか、第3講で国内の異文化体験と国外の文化摩擦体験にはどのようなものがあるか、第4講で文化摩擦を少なくするような多文化共生を見据えた異文化理解学習のあり方を学ぶ。		
活用した資料・データ等	本に載っている写真や自分でとった写真 自己の異文化体験		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 内容は対面授業と変わらないものにした。大枠において本講習で伝えたいことが伝わっていたので安心した。受講者からの異文化体験を開けないのが残念であった。オンデマンド講義であったが、試験の記述は対面と同様にきちんと書かれていた。 2) 運営（連絡等） 動画を作成することにとっても時間がかかったが、それをきちんと運用して頂いたと思う。 3) その他 受講者の感想からなんども繰り返し見ることができることがオンデマンド講義のよいところであることがわかった。パワーポイントでどこを指示しているのかがわかりにくかったようなので、パワーポイントのポインター機能を使うなど工夫したい。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	寶来 敬章	記入年月日	2020 年 11 月 29 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択必修講習 選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教諭 人数：6名		
講習名	「主体的・対話的で深い学び」が求められる要因・学習指導要領からみる 教師の専門性		
講習の目標	「主体的・対話的で深い学び」が求められるようになった学校を巡る近年の状況の変化及び、学習指導要領の変遷や改訂の背景や内容、現代の子ども（主に幼児児童生徒）や家庭をめぐる諸問題と学校間の接続を整理することで、教師の専門性について理解を深めること。		
授業概要 (大まかな流れ)	連絡協議会主催の講習であり、私と県教育委員会のゲストスピーカーで後半部分（学習指導要領の歴史的変遷と特別支援教育、子どもや家族、学校間接続）を担当した。授業概要（配信動画）の大まかな流れは以下の通りである。 内容①：現代社会の特徴を概観し、「生きる力」の議論を整理 内容②：ゲストスピーカーによる特別支援教育についての説明 内容③：子ども、家族、教師をめぐる諸問題 内容④：学校段階別の接続の考え方や取り組み		
活用した資料・データ等	パワーポイント資料、学習指導要領、各種文部科学省資料・答申等		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 新型コロナの影響により、課題意識を事前に確認することができなかったため、どのような方がどのような要望をお持ちなのか把握できなかった。これについては講習の準備をする上で難しさを感じました。 2) 運営（連絡等） 遠隔での実施という中で丁寧に対応していただいたと感じます。 3) その他 特にありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	齋藤 俊彰	記入年月日	2020 年 11 月 30 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択必修講習 選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象者と人数	受講対象者：教諭、養護教諭 人数：30 名 (29 名)	講習会場 (教室等)	
講 習 名	教育活動全体を通して組織的・体系的に行うキャリア教育		
講習の目標	① キャリア教育を学校における教育活動全体の中で計画的・組織的に取り組み、イベント的な活動だけで終わらせないようにする。 ② キャリアは、子どもの発達段階やその発達課題達成と深く関わりながら段階を追って発達していくものであるため、それに応じて体系的に取り組めるようにする。 ③ 学ぶことと自己の将来のつながりを見通しながら社会的、職業的自立に向けて必要となる資質・能力を身に付けさせるための指導力向上を図る。		
授業概要 (大まかな流れ)	① キャリア教育について (定義、育成すべき力、職業教育や進路指導との関連) ② 就学前・小・中におけるキャリア教育、キャリアアカウンセリング ③ 高等学校におけるキャリア教育 (全体計画、年間指導計画、実践例)、 ④ 連携の推進、インターンシップ、評価、教科指導、特別活動		
活用した資料・データ等	・高等学校キャリア教育の手引き (文部科学省) ・三重県高等学校キャリア教育実践事例集 (三重県教育委員会高校教育課) ・高等学校におけるキャリア教育プログラムの策定に向けて (") ・三重県版高等学校キャリア教育プログラム策定ガイドブック (") ・キャリア教育 (藤田晃之 ミネルヴァ書房) ・キャリアガイダンス No. 4 8 (リクルート進学総研)		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 昨年度就学前のキャリア教育についても要望があったため、今回内容に少し取り入れた。特別支援学校におけるキャリア教育の目標と少しズレがあるとの指摘があったので、次回は改善したい。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 急遽オンラインでの開催ということで準備が大変だったと思います。特に動画作成ではお世話になりましたが、おかげで非常にスムーズに編集作業ができました。ありがとうございました。 3) その他 オンデマンド形式だったので受講者とやりとりができず、一方的に進めた講習になってしまった。ワークショップでキャリアアカウンセリングの実践をやりたいかった。次年度実施する機会があれば、さらに内容を改善し今回以上に受講者の満足度を高めたい。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	大野 恵理	記入年月日	2020 年 11 月 25 日
講習の区分	選択必修講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象者と人数	受講対象者：全教員 人数：27		
講 習 名	児童が楽しんで学べる外国語活動・外国語指導法		
講習の目標	第二言語習得論に基づいた指導法を身につけること。		
授業概要 (大まかな流れ)	学習理論→指導法(実践)		
活用した資料・データ等	自作動画 各社(例: mpi)の公式ページ(YouTube チャンネル)の動画等		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 本講習は体験型なので、それをオンライン化することによりかなり工夫をし時間を要したが、大半の受講者が何かを学びとったと感じ(記述試験)講習目標が達成できたのでは?と感じている。 2) 運営 (連絡等) 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	森浩平・風間惇希	記入年月日	2020 年 11 月 25 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教員免許状所有者 人数：42 名		
講習名	発達障害のある幼児・児童・生徒や気になる子への教育や支援の現状と対応		
講習の目標	発達障害またはその可能性のある子どもや生徒に対する理解や支援の方法に関する知識を身につける。		
授業概要 (大まかな流れ)	・心理学・精神医学における発達障害の概説 ・発達障害に対する臨床心理学的アセスメント概説 ・発達障害への対応Ⅰ—1 対 1 の対応について— ・発達障害への対応Ⅱ—組織による対応について— ・演習ワーク		
活用した資料・データ等	・発達障害に関する書籍 ・臨床心理学的アセスメント・支援に関する書籍		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 教育現場における発達障害またはその可能性のある子どもや生徒を理解したり支援したりするための、より具体的な話を盛り込んだが、受講生がどの程度関心を持って理解していたか分からず不安ではあった。ただし、試験内容やアンケートにはポジティブな意見も多かった。話が少し専門的すぎたかもしれないという実感も一方ではある。 2) 運営 (連絡等) 運営面では特に大きな問題はなかったように思う。 3) その他 オンデマンド型の講習になったことから、受講生とのやりとりがとれなかった点でやりにくさは感じた。質疑応答の時間もとれず、受講生の理解度や関心の程度を図りながら授業を進めていくことができず、少し残念だったように思う。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	山根 栄次	記入年月日	2020 年 11 月 27 日
講習の区分	必修講習・〇選択必修講習 選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、特別支援学校教諭 人数：11 名		
講習名	学校におけるキャリア教育と起業家教育		
講習の目標	学校における進路指導及びキャリア教育の意味と必要性、その社会的・経済的背景が分かり、キャリア教育の具体的な方法が分かる。また、起業家教育の意味と方法が分かり、簡単な事業計画書が書けるようになる。		
授業概要 (大まかな流れ)	・講師自身のキャリアに関する生活体験と学習体験 ・「なぜキャリア教育」が必要なのか、「キャリア教育で育てる学力・資質」とは何か ・キャリア教育に関係の深い教科・領域と内容 ・起業家教育とは何であるか、起業家教育における活動は何か		
活用した資料・データ等	全ての資料とデータを動画ファイルに入れた。 文部科学省・国立教育政策研究所 『キャリア教育のススめ』東京書籍 同上『変わるキャリア教育』ミネルヴァ書房 小熊英二 『日本社会のしくみ—雇用・教育・福祉の歴史社会学』講談社現代新書 講師作成プログラム 「会社をつくろう」		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 最新のデータを入れるように努めた。オンライン講習で、受講者とのコミュニケーションが全く取れずに困った。 課題の授業計画書は、比較的よくできていて安心した。 2) 運営 (連絡等) 事務の方がオンライン動画を作成するための指示やアドバイスを良くしてくれた。 3) その他 オンラインのための動画を作成するのに時間がかかり、苦勞もした。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	中川 正	記入年月日	2020 年 11 月 25 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象 者 と 人 数	受講対象者：教諭 人数：2		
講 習 名	日常生活と社会科学を結ぶアクティブラーニング実践		
講習の目標	日常生活の中から法則性を発見し、それを説明・解釈し・応用に結びつける学習を通して、身近な現象が社会科学との接点を持つことを理解し、社会科学を学ぶ意義を気づく教育実践紹介。		
授業概要 （大まかな流れ）	① 授業ガイダンス ② 法則探検の三段活用 ③ 発見の方法 ④ 説明・解釈の方法 ⑤ 応用の方法		
活用した資料・データ等	学生が発見した法則集をパワーポイントで紹介		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 対面授業をオンライン授業としたために講義としての色彩がつよいものとなった。 2) 運営（連絡等） とくに問題なくスムーズにできた 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	新田 貴士	記入年月日	2020 年 11 月 25 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象 者 と 人 数	受講対象者：教諭 人数：15		
講 習 名	数と図形の話		
講習の目標	身の回りの数学から深い概念を学び学校現場で使える話題を提供する。		
授業概要 （大まかな流れ）	10 個の話題に数学の内容を分け、各話題を対話型で、紹介する。		
活用した資料・データ等	無し		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） とても良くできていた。 2) 運営（連絡等） 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	松本 金矢	記入年月日	2020 年 11 月 25 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小中教諭 人数：4		
講習名	最適設計を取り入れたものづくり教材		
講習の目標	全校種でものものづくり教育を行うことに意義を理解し、自分の担当校種・教科に応じた教育内容を考えることができる。		
授業概要 （大まかな流れ）	世界の中の日本のものづくり教育の現状を知るとともに、新学習指導要領で目指す教育内容の活用を実現する方法としてのものづくり教育のあり方を考える。最適設計の理論とその応用、教材開発に必要な力量の形成方法、新たな校外活動の必要性について議論し、具体的な造形教材、パズル教材、木工における機械加工技術取得教材を紹介する。		
活用した資料・データ等	全校種を通してものづくり教育に取り組むことの必要性 最適設計を取り入れたものづくり教材 技術科教員養成における教材開発のための PBL 教育モデルの提案と実践 鈴鹿サーキットとの共同による自動車産業に関わる体験学習プログラムの開発と実践 星形多面体を用いた造形題材の検討 技術科教員養成における木材加工技術修得のためのホーン型スピーカー教材の提案 中学校技術・家庭科におけるエネルギー変換に関する教材の提案 遺伝的アルゴリズムを用いた最適設計に関する教材の開発		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ビデオでの講義であったため、反応が得られず不安があったが、試験結果から講習内容は十分に伝わったものと考えます。 2) 運営（連絡等） オンデマンドに変更されたにもかかわらず、講習内容・講習名の変更が出来なかったことが不満です。 3) その他 特になし。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	成岡 市	記入年月日	2020 年 11 月 25 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択必修講習 選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者人数：10 人		
講習名	“ビオトープ”は野生生物の生息空間とはいうものの・・・		
講習の目標	“ビオトープ”は、生物群集という概念を提唱したドイツの動物学者が動植物の生物共同体の生息場所という意味で使い始めたといわれている（歴史的な理解を深める）。生物の生息環境を意味する生物学の用語であり、「有機的に結びついた生物群。生物社会の生息空間」という概念に落ち着いている（定義や概念を理解する）。その結果として、「ドイツ生まれの“ビオトープ”、日本で理解・実践されている“ビオトープ”」について理解を深め、「学校ビオトープ」のあり方についての認識を再確認する。以上を本講習の目標とした。		
授業概要 （大まかな流れ）	1.“ビオトープ”総論 2. 概念、定義、意義 3. 歴史、法律、事例 4. 野生動植物と人間社会の共生 5. 日本型ビオトープの考え方 6. ビオトープ創出における雑草の問題 7. ビオトープに関する調査法（例） 8. ビオトープに関する日本とドイツの比較 9. マングローブ環境と生物生息空間保全 10. 履修認定試験		
活用した資料・データ等	ほとんど PPT 資料を用いた		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 受講者に自由記述では、 ・ 自由な時間に受講できた ・ 資料を何度も見返（復習）することができた ・ 生声による説明を全ての PPT に入れて欲しかった ・ 対面式講習を望む ・ ビオトープの理解が深まった などの意見が目立った。また受講者評価は「3～4 幼稚園～高校、3～4+2 小学校～高校」に分布し、大方「よい」の評価をいただいたと理解した。ただし、一人だけ「資料を提示しただけで講師の声がない」ことについて厳しい意見が示された。 2) 運営（連絡等） 受講者も同意見だったが、「COVID-19」のためにオンデマンド式講習は、きわめて不評だった。ほぼ受講者全員が対面式の優位点を主張していた。 3) その他 現時点（2020. 11. 25）で、来年度の状況は予測不可能であるが、対面式授業方法に慣れ親しんでいる受講者に対して、ぜひ対面式講習が再開されることを切に祈ります。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	山口 泰弘	記入年月日	2020 年 11 月 30 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中高教諭 人数：8 人		
講習名	鑑賞教育（美術）		
講習の目標	学習指導要領の改訂によって、中学校・高等学校の美術教育における鑑賞教育の重要性が以前にも増して高まってきている。そこで、この講習では、日本美術を対象として取り上げ、美術作品の鑑賞および教育の方法について検討するとともに、日本の美術や伝統と文化に対する理解を深め、美術を通じた国際理解を深める方法についても考察する。		
授業概要 （大まかな流れ）	午前：1 コマ 9:00～10:20 学習指導要領と鑑賞教育の重要性 2 コマ 10:30～11:50 鑑賞教育の先進例 午後：1 コマ 13:00～14:50 鑑賞教育への美術史的方法の導入 試験：15:00～15:40		
活用した資料・データ等	学習指導要領（中学2年） 海外の美術館博物館で収集した鑑賞教育関連資料 絵画・彫刻等の美術資料の画像データ		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） 新型コロナウイルスの関係で、オンデマンド形式の授業形態となったが、受講生の反応を全く確認できないのは問題と考える。せめて zoom 等が使える環境を三重県の学校全体で構築していただきたい。 2）運営（連絡等） 特に問題は感じませんでした。しかし、今回のシステムを築き運営した関係者のみな様のご苦労は大変だったと思います。 3）その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	加納 岳拓	記入年月日	2020 年 12 月 4 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択必修講習 選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園・小学校教諭 人数：31 名		
講習名	学びの基盤を育む運動（遊び）		
講習の目標	社会や家庭環境の変化によって、学校や園において学習面や行動面で課題を持つ子どもが増えてきている。この課題に対して、認知的な側面からのアプローチだけでは解決が難しいため、身体的な側面からのアプローチを理解する。その際、単なるトレーニングとして運動を扱うのではなく、運動の文化的な価値との関連から、運動（遊び）に対して夢中になって参加する中で、結果として学習の基盤となる能力を育むことのできる活動内容や展開について考えることができる。		
授業概要 （大まかな流れ）	1. 本講習のねらい 2. 学びの基盤を育む運動遊びー重力やモノとのかかわり 3. 学びの基盤を育む運動遊びー対人とのかかわり 4. 運動（遊び）と日常生活や教室授業との関係		
活用した資料・データ等	パワーポイントで作成したスライドをもとにした動画		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） 例年は実技を実施し体感をもとに講義をしているが、今年度はオンラインとなり内容等を伝えることに難しさを感じた。動画も挿入したが、個人情報等の関係で使用できるものも少なく、図や言葉での説明が多くなったために受講者の先生方にとって有益となったかは不安な所である。また、オンラインで使用したスライドが多かったため、全ての資料とせず、受講者に必要な部分を保存してもらおう形としたが、多くのスライドの情報を残しておきたい受講者の肩にとっては負担が大きかったようである。 2）運営（連絡等） 3）その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	松本 昭彦	記入年月日	2020 年 12 月 7 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象 者 と 人 数	受講対象者：中・高(国語)教員 人数：12		
講 習 名	古典文学と昔話		
講習の目標	昔話と古典文学のつながりを知り、授業に活かす。		
授業概要 (大まかな流れ)	一寸法師と浦島太郎について、各時代の資料・本文を使って、変遷過程を確認し、現在の昔話としての作品の意味を知る。		
活用した資料・データ等	新日本古典文学大学等		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) オンデマンドの音声を中心とした講義を行い、それをもとに授業を構想させた。 2) 運営 (連絡等) 概ね問題なし。 3) その他 なし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	玉城政和、森山貴之	記入年月日	2020 年 12 月 7 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象 者 と 人 数	受講対象者：中学校・高等学校数学科担当教員 人数：12		
講 習 名	魅惑の数「黄金比と円周率」		
講習の目標	彫刻や絵画だけでなく身の回りにおける図形や自然現象などにも現れる黄金比について、単なる比率ではないそれが持つ様々な数的事象を説明しその魅力に触れ理解する。 円周率 π を数学的な立場からだけではなく、そこに現れる文字の乱雑さ・出現率の観測、誕生日の発見といった体験を通して楽しむ。		
授業概要 (大まかな流れ)	(1)：動画1 (黄金数について) 動画2 (発展) 視聴 認定試験 (魅惑の数「黄金比と円周率」(1)) (2)：動画3 (πって何?) 動画4 (πの値へのアプローチ) 動画5 (πの乱雑さ) 動画6 (πを視覚化する) 視聴 認定試験 (魅惑の数「黄金比と円周率」(2))		
活用した資料・データ等	・「黄金比」に関する講習ノート ・「円周率」に関する講習ノート		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 十分な準備を行い、楽しみながら新しい発見のできる講習にしたつもりです。 2) 運営 (連絡等) 動画、資料を丁寧にチェックして頂きありがとうございました。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	中西良文	記入年月日	2020 年 12 月 3 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼小中高特支教諭 人数：39		
講習名	学習モチベーションの心理学		
講習の目標	「(学びに対する)やる気・モチベーション」についての心理学的知見を理解するとともに、これらの知見を実際に使えるようにする。		
授業概要 (大まかな流れ)	動機づけとは 内発的動機づけ・自律的動機づけについて 有能感・無力感について 達成目標志向性について 課題価値について		
活用した資料・データ等	内発的動機づけに関する実験データ、逸話 セリグマンによる学習性無力感実験の詳細 達成目標志向性に関する逸話 「好み選択」課題		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 初めてのオンライン講習、しかもオンデマンドということでどのようなかと思ったが、試験の回答を見る限り、従来から学習成果が落ち込んだというわけではいかなと考えている。(実際、オンデマンドにすることで、説明の時間を効率化することができ、従来扱えなかったトピックを1つ増やして扱うことができた。)次年度以降は質疑応答のやりとりなどができるとういかもしれない。 2) 運営 (連絡等) この大変な状況の中、丁寧に連絡対応をしていただいて感謝しています。 3) その他 320 分の動画を作成するのは、本当に大変であった。 できあがったものがそれほどクオリティーの高いものではないかもしれないが、それでも動画撮影の準備(原稿作成)、撮影、編集までを含めると、動画時間の5倍から10倍(以上?)の作成時間がかかった。 そのため、(今年は緊急の状況で仕方なかったが今後は)動画作成を補助してくれるという分野に強いスタッフに補助をしていただくか、もしくは、それなりの環境を整えるだけの金銭的な支援があるとよいと思う。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	長尾 みづほ	記入年月日	2020 年 12 月 3 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日 オンライン
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：		
講習名	アレルギー疾患		
講習の目標	アレルギー疾患、特に食物アレルギーは、近年有病率の増加していることや、アナフィラキシーを起こす重症児が就学年齢以降も少なからず存在することが指摘されている。文部科学省からも食物アレルギーの対応について研修資料やエビイベントレーナーなどの資料が配布されており、教育現場でも対応が要求されている。特にアレルギー症状が誘発されたときの対応について、より具体的に説明し、資料としては、各学校でも活用されやすいように文部科学省が作成したものも用いるようにした。また、一般的に必要とされる食物アレルギーの知識について、病因と病態、保護者や医療機関との連携づくりなどについて要点を説明した。		
授業概要 (大まかな流れ)	食物アレルギーの病態、特殊な食物アレルギー、疫学などの説明。診断方法や、誘発症状について。症状出現時の初期対応、アナフィラキシー時の対応、特にエビベンについて。児童生徒が食物アレルギーを学習するためのツールや近年公開されている資料の紹介。		
活用した資料・データ等	文部科学省の資料、三重県教育委員会から発刊しているアレルギー対応の手引き、ヒヤリ・ハット例などを用いた。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 例年は、事前の質問に返答したりその場での質疑応答も重視しているが、オンデマンドの形式であるため、内容に偏りがないようにしました。 2) 運営 (連絡等) 動画作成やアップロードなど事前の説明もあり、特に問題はありませんでした。 3) その他 オンラインは便利ですが、可能ならばオンデマンドではなく、リアルタイムのウェビナーとして開催できると、その場でこちらから質問をしたり、意見を回収できるのでいいのではないかと思います。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	三谷義英	記入年月日	2020 年 12 月 3 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象者と人数	受講対象者：教員 人数：29 名出席	講習会場 (教室等)	
講 習 名	学校保健 児童生徒の心臓性突然死		
講習の目標	児童生徒の心臓性突然死の基本的知識の習得と救急対応の重要性の理解、BLS 講習 受講の動機付け		
授業概要 (大まかな 流れ)	児童生徒の心臓性突然死の臨床的特徴、事例、AED を用いた蘇生の実践的な知識と 地域社会、学校での意義		
活 用 し た 資 料・データ等	スライド、プリント、引用文献		
講 習 に 関 す る感想	1) 内容 (試験等を含む) 特になし 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 温度調節が不安定。マイクの音質、プロジェクターが小さい 3) その他 もし 100 名講義室の方向性がある場合、2 の検討が必要。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	菅 秀	記入年月日	2020 年 11 月 25 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象者と人数	受講対象者： 人数：29		
講 習 名	学校保健 学校での感染症予防と対応		
講習の目標	小児でよくみられる感染症の概略、感染予防、感染拡大予防に関する知識を習得する。		
授業概要 （大まかな 流れ）	パワーポイント動画		
活用した資料・データ等			
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） 2）運営（連絡等） 3）その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	秋元ひろと	記入年月日	2020 年 12 月 9 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭（小・中・高） 人数：6		
講習名	論理トレーニング		
講習の目標	論理を、狭義の数学的な記号論理学が扱う論証の妥当性よりは広く、換言、例示、補足、理由・帰結などの、文と文の接続関係と捉え、日本語の文章を読んでそれらの関係を適切に把握するトレーニング、それらの関係を適切に表現して日本語の文章を書くトレーニングをする。		
授業概要 （大まかな流れ）	接続関係と接続表現（解説と練習問題） 論証と論証図（解説と練習問題） 論証の評価（解説と練習問題）		
活用した資料・データ等	講義内容の資料（練習問題を含む）		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） オン・デマンド教材の作成に時間を要したことは別にしても、受講生の反応を見ながらの講習とは異なり大変であった。 2）運営（活用機材、会場、補助員等） とくに問題はなかった。 3）その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	宮下 伊吉	記入年月日	2020 年 11 月 26 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学校・高等学校教諭 人数：19 名		
講習名	「教えない」授業を学ぶ～能動的な協働学習を促すシナリオ教材の設計～		
講習の目標	誰かに何かを教えるとき、まず興味を持ってもらわないと学習への意欲が生じず、学習が成り立たないと考え「教える技術」とその理論があります。「教える技術」は誰でも身につけることができ、「教えない」（一方的講義をしない）授業の実現も可能です。この講習では、自分が担当する授業の一つを取り上げ、生徒（学習者）が興味を持ち、自ら意欲的に取り組めるシナリオ教材の設計を通して、「教えない」授業の実践方法を学びます。		
授業概要 （大まかな流れ）	動画視聴と課題（ワークシート記入と Moodle 入力）取り組み時間を含め合計約 6 時間分の内容を、15 回分に分割して、1 回あたり短時間で繰り返し学習できるようにしました。		
活用した資料・データ等	動画コンテンツと Moodle による課題、ワークシート（7 ページ分）による課題		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） 動画と Moodle によるオンデマンド型講習という初めての試みに変更となり、受講者も運営側も大変だったかと存じます。問い合わせメールが担当教員に届くことなく、受講者全員の答案用紙が提出されてきたので、良かったです。 Moodle には受講者全員が登録できていましたが、早くから受講完了できていた人と、一部の課題までしか進まなかった人、締め切り直前に取り組む人もいました。次年度に向けて、課題の量と内容の見直しを検討します。 2）運営（連絡等） Moodle 利用にあたり、デイリーアカウント発行など助かりました。 「講習を受けるにあたって」の作成時には、事務局から受講者への案内文を参考にさせて頂きました。ありがとうございました。 3）その他 次年度もオンデマンド開催の場合は、今年度よりも早めに準備できるかと存じますので、受講者が取り組みやすい時期と期間についてご検討をお願いします。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	露峰茂明	記入年月日	2020 年 11 月 26 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象者と人数	受講対象者：中高教諭 人数：11		
講 習 名	平方数の和		
講習の目標	平面上で格子点を結んでできる正方形の面積になり得る数を求める。 必要となる初等整数論のさまざまな定理や計算法を思い出したり学習したりする。		
授業概要 （大まかな 流れ）	・ 余り付き割り算、最大公約数 ・ ユークリッドの互除法 ・ 一次合同式 ・ 平方数の和についてのフェルマーの証明 ・ 課題		
活 用 し た 資 料・データ等	講習のために作成した PDF		
講 習 に 関 す る感想	1) 内容（試験等を含む） オンラインで行われた講習だった。数学の場合、講習直後の試験というのは本来適切ではなく、講習の内容について考える時間の余裕があるべきものである。オンライン講習のよいところはその時間が取れることで、課題へのよく考えられた解答を読ませていただいたことに感謝したい。 2) 運営（連絡等） 特にないが、急遽のオンライン講習への対応は大変だったと思います。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	齋藤 俊彰	記入年月日	2020 年 11 月 30 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象者と人数	受講対象者：教諭、養護教諭 人数：50 名（54 名）	講習会場 （教室等）	
講 習 名	野菜を好きになってたくさん食べよう		
講習の目標	・ 三重県は男女とも野菜摂取量が少ない傾向がみられるので、その原因を探る。 ・ 野菜の機能性を理解する。 ・ 子どもや生徒たちが正しい食の選択、バランスのとれた健康的な食生活を送ることをめざす。		
授業概要 （大まかな 流れ）	① 野菜の摂取量、スーパー食育スクールの取り組みについて ② 野菜の機能性 ③ 食意識・食生活実調査の結果 ④ 野菜を好きになるためのアプローチ ⑤ スーパー食育スクールの成果、野菜を育ててみよう ⑥ ワークショップ（キッチンガーデンの設計）		
活 用 し た 資 料・データ等	・平成27年度 文部科学省委託 スーパー食育スクール報告書 食生活の改善と将来の食育リーダーの育成 ～野菜を好きになるプロジェクトを通して～ 三重県立久居農林高等学校 ・平成23年10月 研究資料 第9号 野菜の機能性研究の現状と今後の研究課題 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所		
講 習 に 関 す る感想	1) 内容（試験等を含む） ・ 受講者の勤務先が保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校と多岐にわたっていたが、児童、生徒、保護者を対象とした「スーパー食育スクール」の取り組みの紹介や成果を踏まえながら講習を行ったので、今後、それぞれの学校・園でも実践していただけるものと期待している。 ・ 6部制にしてそれぞれの時間をあらかじめ明記したことや小学生・高校生の活動の動画や画像を多く取り入れたので受講者から好評価をいただいた。 ・ 昨年は昼休みをはさんで、キッチンガーデンの設計と発表を行ったが、今年はオンラインだったので最後の40分を設計の時間に充てた。発表してもらうことはできなかったが、提出された図面は力作揃いだった。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 急遽オンラインでの開催ということで準備等大変だったと思います。特に動画作成ではお世話になりましたが、おかげで非常にスムーズに編集作業ができました。ありがとうございました。 3) その他 次年度実施する機会があれば、さらに内容を改善し今回以上に受講者の満足度を高めたい。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	松岡 知津子	記入年月日	2020 年 11 月 26 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校教諭 人数：9		
講習名	外国につながる児童のための日本語指導 —形容詞と動詞を中心に—		
講習の目標	世界の中の日本語がどのような特徴を持っているかを学び、外国につながる児童にとって、どのようなポイントが困難となりうるかを知る。その上で、実際の教育現場においてどのような教育が可能となるかを考える。		
授業概要 (大まかな流れ)	本講習では、ますます増えつつある外国につながる児童のための日本語教育に役立つ形容詞と動詞の活用ルールについて考えた。そして、①日本語の形容詞や動詞の活用がうまくできない日本語学習者にとって紛らわしい形容詞や動詞とは何か、②どのように日本語(形容詞や動詞の活用)の訂正を行えばよいかを学んだ。さらに、③市販の日本語教科書や活動集・活動例、文科省の日本語教育サイト等を紹介し、日本語練習の可能性について考えた。		
活用した資料・データ等	・小学校5年生用国語教科書 ・文部科学省掲載の日本語教材ページ ・日本語教師用教材 ・外国につながる児童に関する著書		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 自分が設定した目標、授業の概要については、オンラインならではの方法で効率的に触れることができたと思うが、すべての事前アンケートに答えることが難しかった。 2) 運営(連絡等) 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	和田 崇	記入年月日	2020 年 11 月 26 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学校・高等学校の国語科担当教諭 人数：23 名		
講習名	中学・高校の現代文定番教材を読みなおす		
講習の目標	1. 世代間で解釈の差異が生じやすい定番教材を取り上げ、文学研究の方法論を援用した解釈やアプローチを紹介することで、定番教材の教材価値を再考する。 2. 講師の一方的な解釈の提示にとどまるのではなく、受講者と講師の双方が自身の教材観や授業法を相対化し、各々の教材に対する認識を深める。		
授業概要 (大まかな流れ)	1 限目(20分)：講習の概要 2 限目(75分)：太宰治「走れメロス」 3 限目(75分)：芥川龍之介「羅生門」 4 限目(75分)：魯迅「故郷」 5 限目(75分)：中島敦「山月記」 6 限目(40分)：履修認定試験／受講者評価(終了後)		
活用した資料・データ等	・中学校および高等学校国語教科書の文学教材一覧(自作) ・太宰治「走れメロス」(『伝え合う言葉 中学国語2』教育出版) ・芥川龍之介「羅生門」(『改訂版 新訂国語総合』第一学習社) ・ヘルマン・ヘッセ／高橋健二[訳]「少年の日の思い出」(『現代の国語1』三省堂) ・ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」書誌および教科書掲載史(自作) ・ヘルマン・ヘッセ／岡田朝雄[訳]「少年の日の思い出」抜粋(自作) ・中島敦「山月記」(『高等学校現代文B』第一学習社)の抜粋 ・李景亮「人虎伝」(『国訳漢文大成文学部第十二巻』国民文庫刊行会)の抜粋 ・佐藤春夫「親友が虎になつてゐた話」(『佐藤春夫全集第31巻』臨川書店)の抜粋		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 最初に「講習の概要」で国語の定番教材が生まれる原因を概説し、各時間の前半に従来(以前)の教材の評価のされ方を説明、演習をはさみ、後半に文学理論にもとづいた定番教材の読みかえの実践例を解説した。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) PCアプリ：Zoom, MS PowerPoint, Just PDF 活用機材：マイク内蔵カメラ(Logitech C922 Pro Stream Webcam) 3) その他 ・講習内容として世代間の教材観の違いを問題視しているため、受講者の年齢層の情報が知りたい。「受講者出席簿」で校種などの内訳は把握できるが、可能であれば「出生年」だけでもわかると、講習がより進めやすくなる。 ・オンデマンド型講習で使用した動画について、来年度も同じものが使用可能であることを後で知った。講習内で時事ネタや日付などを入れていると、来年度に撮り直しをしなくてはならなくなるため、そういった情報は早めに提供してほしかった(私がマニュアルを見落としていただけでしたらすみません)。 ・最後に、準備をしてくださった職員の皆様、ありがとうございました。今年は特に、オンデマンド型講習への変更や各講師の動画の確認等で例年より負担が大きかったと思います。心より御礼申し上げます。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	吉本 敏子	記入年月日	2020 年 12 月 2 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校・中学校（家庭）・高等学校（家庭）の教諭 人数：11 人		
講習名	家庭科における「消費生活・環境」の授業づくり		
講習の目標	現代の消費生活の特徴を理解し、消費者教育の必要性を考える。また消費者教育の概念、内容、方法、学習指導要領における消費者教育のねらいを理解し、授業実践例や教材を参考にしながら、家庭科における消費生活と環境に関する学習の授業構想や教材の工夫ができるようになることを目指す。		
授業概要 （大まかな流れ）	授業はオンデマンドで実施した。全 8 回の講義とし、それぞれ約 40 分の動画を視聴した後、課題に取り組んでいただいた。 第 1 回 現代の消費生活と課題 第 2 回 消費者問題と若者の消費者トラブル 第 3 回 消費者教育とは何か 第 4 回 学習指導要領「消費生活・環境」 第 5 回 新学習指導要領と授業の設計 第 6 回 成年年齢の引き下げと契約 第 7 回 消費者の権利と責任 第 8 回 授業の事例		
活用した資料・データ等	8 回分の授業の動画を作成し視聴できるように準備した。また、その内容を資料として配布した。		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） 消費生活・環境の授業づくりを目指した授業構成を考えたが、オンラインでの受講ということで、準備する側として初めて動画作成に取り組んだため、十分効果的な教材を作成できなかったと思われる。また受講者については、しっかり学んでいただけるように試験問題を工夫したつもりであったが、試験の答案を見ると個々人様々で、例年より低調な解答が多かったように感じられる。来年度のオンライン授業に向けて、より丁寧で分かりやすい授業づくりを目指して改善をしたい。 2）運営（連絡等） 動画作成に思った以上に多くの時間がかかり提出が遅れたが、担当者に丁寧に対応をしていただいた。 3）その他 受講者の皆様からは、オンラインの授業について、何度もくり返し学べるので良かった、遠隔地なので助かった、自分の時間の都合に合わせて受講できて良かったというご意見とともに、やはり対面で受講したかった、異校種の先生方や自分の地域以外の先生方と意見交換や情報交換がしたかったという意見もあった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	山根 栄次	記入年月日	2020 年 1 月 2 7 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校教諭、中学校教諭（社会）、高等学校教諭（公民科） 人数：5 名		
講習名	社会科・公民科の授業における新聞活用（NIE）		
講習の目標	社会科と公民科の授業における新聞活用（NIE）の意義とその具体的な方法について分かる		
授業概要 （大まかな流れ）	・社会科・公民科における新聞活用の目的・目標 ・社会科・公民科における新聞活用の具体的な方法 ・社会科・公民科の特に経済学習における新聞活用の具体的な方法として、「株式学習ゲーム」を紹介・説明、実際に株式を模擬的に購入し計算 ・新聞切り抜き作品」の制作について紹介・説明し、実際に作品を作成		
活用した資料・データ等	全ての資料とデータをオンラインの動画に入れた。 ・中日新聞、「新聞切り抜き作品優秀作品」 ・小原友行他編『初めて学ぶ・学校教育と新聞活用』ミネルヴァ書房 ・日本証券業協会 株式学習ゲーム・ホームページ		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） 例年のようにしたが、新しいデータを入れた。 提出作品の大きさを例年の半分の大きさにした。 2）運営（連絡等） 学務係の方が、動画の作成について支援とアドバイスをしてくれた。 3）その他 オンライン講習のための動画をつくるのにたくさんの時間がかかった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	清水 万里子	記入年月日	2020 年 12 月 3 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象 者 と 人 数	受講対象者：幼～高の教諭 人数：36		
講 習 名	小学校における英語コミュニケーション能力の育成		
講習の目標	小学校で学ぶ英語の目的を理解し、コミュニケーション能力育成のための英語指導法を知る。また、何を具体的に教えるのかコンテンツも理解できるようになる。		
授業概要 （大まかな流れ）	小学校で指導する際に有効な理論、教授法・指導法の具体的な知識を得よう、実践例を交えて、ビデオ配信で行った。		
活用した資料・データ等	パワーポイント+Video 画像 英語歌、音声教材 文科省資料、小英教科書、書籍等		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 特に試験は、知識を問う問題が多くなってしまったので、もう少し、具体的な教え方を教授できるとよかったと思う。 2) 運営（連絡等） 良い 3) その他 ビデオ 40 分毎に振り返りポイントを示して、理解を促すことができたと思う。オンデマンド講習は、実際のワークショップが展開できないので、難しさを感じた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	余 健	記入年月日	2020 年 12 月 2 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択必修講習 選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象 者 と 人 数	受講対象者：幼・小 人数：10 名		
講 習 名	学習者(国語教育・日本語教育)の初期教育における文字表記の問題点と指導法		
講習の目標	国語教育と日本語教育の初期段階における表記の習得において、誰もが問題になる撥音・促音・長音・拗音について、音声学と音韻論の基礎に基づき、具体的な指導法を確認し、受講された方の日々の授業に生かせること。		
授業概要 （大まかな流れ）	音声学と音韻論の基礎知識を体感的に確認した後、撥音・促音・長音・拗音、エ列・オ列長音における表記を間違える理由や具体的な指導法をビデオ画像と板書で確認した。最後に、筆記試験を書く際や日々の授業に、参考にしていただけるような教材や指導案を紹介した。		
活用した資料・データ等	レジュメ・資料(国際音声記号・教材例)・教材のビデオ画像(海津亜希子氏監修)・日本語ネイティブ(幼児)と外国人日本語学習者(中学生)の表記における誤用例・フィリピン人日本語学習者(中学生)の発音例		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） Zoom の録画機能等の使い方について、確認できていなかったり、オンデマンド式の収録に慣れていなかったりしたため、動画の作成に、とても苦労した。受講者評価書や試験用紙に、動作化の対案や日々の実践の御紹介を頂き、大変参考になりました。特に、「受講生の学習意欲がわくような工夫」については、今後の課題とさせていただきます。 2) 運営（連絡等） 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	下村 智子	記入年月日	2020 年 12 月 3 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択必修講習 選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭（小・中・高） 人数：41 名		
講習名	世界の教育事情		
講習の目標	以下の 3 点を獲得・深化させ、わが国の教育に対する理解を深めること： ・ 学校教育を捉える多様な視点 ・ 世界の教育の動向に関する理解 教育に関する国際的な動向に対する理解		
授業概要 （大まかな流れ）	動画 1 講義（1）世界の学校教育制度（54 分） 動画 2 講義（2）前編 世界の学校文化（36 分） 動画 3 講義（2）後編 世界の学校文化（60 分） 動画 4 講義（3）世界の学校の三類型（37 分） 動画 5 講義（4）資質・能力の育成（64 分） 動画 6 講義（5）世界の学校と教師の役割（76 分）		
活用した資料・データ等	・ 沖原豊著『心の教育』学陽書房、1986 年。 ・ 国立教育政策研究所『学校組織全体の総合力を高める教員配置とマネジメントに関する研究調査報告書』2017 年。 ・ 二宮皓編著『こんなに厳しい！世界の校則』メディアファクトリー、2011 年。 ・ 二宮皓編著『新版 世界の学校』学事出版、2014 年。 ・ OECD「図表で見る教育」（2019 年版） ・ 文部科学省『諸外国の初等中等教育』2016 年。 ・ 文部科学省『世界の教育体系』2018 年。 ・ 文部科学省『諸外国の教育動向 2018』2019 年。		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） 例年の講義では、グループによる意見交換を取り入れた授業を展開してきたが、今回は、講義内容をすべて動画で配信することとなったため、授業の構成や内容の再構成を行いました。これまで対面であるからできてきたことが多く、受講生の皆さんにはも物足りない部分もあったのではないかと思います。また、設定された時間の中に講義を納めることを意識しながら動画を作成すること、受講内容がどのように理解されているかを評価する方法について検討することなど、今までにない工夫が求められたと思います。講義内容の理解にあたっては、ワークシートを利用する等でしたが、受講生の皆さんにとっては、少し負担が増えてしまったようで、今後の課題だと思っております。 2）運営（連絡等） 今回は、運営面では大変なご苦勞があったのではないかと拝察します。また、動画作成にあたっては、いろいろとお世話になりました。 3）その他 動画の作成について、音が小さいなど、音量に関するご指摘を受講生の方々から複数ご指摘いただきました。受講も長時間に渡りますので、負担にならないような動画作成に今後は努めたいと思います。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	守田 庸一	記入年月日	2020 年 12 月 4 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択必修講習 選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校教諭 人数：38 名		
講習名	これからの読解力を育てる小学校国語科の授業		
講習の目標	小学校の国語科におけるこれまでの授業実践及び先行研究の成果をふまえつつ、新学習指導要領も視野に入れながら、これからの読解力を育てられる授業のあり方について具体的に考察することができる。		
授業概要 （大まかな流れ）	前半（160 分）小学校国語科における説明文の授業について 後半（160 分）小学校国語科における物語文の授業について		
活用した資料・データ等	・ 教科書教材 ・ PISA（OECD 生徒の学習到達度調査）関連資料 ・ 国語科教育に関する資料 （学習指導要領及びその解説、「読むこと」に関わる先行研究等）		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） これからの国語科における読むこと（説明文と物語文）の学習指導について、今後の授業改善に資する内容を扱いました。オンラインでの講習でしたが、課題を示し受講者一人ひとりが考察する時間を設けるなどして、単調な講義にならないように留意しました。試験を通じて、国語科における読むことの授業に対する受講者の意識の変化を捉えることができました。 2）運営（連絡等） オンラインでの実施に際し、運営面での諸々のご対応に感謝しています。 3）その他 特にありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	重松良祐	記入年月日	2020年11月27日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2020年10月1日～11月16日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園、保育園の教諭・講師 人数：38		
講習名	運動意欲を高める行動科学の手法		
講習の目標	行動変容に関するさまざまな手法を理解する。そして、子どもや保護者、他教員に対して行動変容を働きかけられるようになることを目指す。		
授業概要 （大まかな流れ）	1. ガイダンス 2. アクティブガイド 3. 健康づくりのための身体活動基準 2013（課題あり） 4. 笹川スポーツ財団の資料 5. 幼児期運動指針 6. 論文紹介（課題あり） 7. 行動変容 8. 寸劇台本の説明 9. 寸劇台本の作成（課題あり）		
活用した資料・データ等	・身体活動と健康に関する最新情報の提供 ・行動科学を活かした身体活動・運動支援（2006.09 大修館書店）		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） ・オンラインでの講義のため、授業内容をどのように構成するか悩みましたが、最終的には例年と同じような内容にしました。 ・動画ファイルを作成するのに手間取りました。 ・説明は分かりやすかったという声を頂戴し、嬉しく思いました。 ・課題が多いという声も頂戴したので反省します。 2）運営（連絡等） ・事務局の対応が良かったため、問題無く進めることができました。 3）その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	鈴木 聡	記入年月日	2020年11月26日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2020年10月1日～11月16日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、高等学校 教員 人数：98人		
講習名	「学校のできる虐待対応・愛着の障害および発達の問題について」の中の学校のできる虐待対応（鈴木担当分）		
講習の目標	児童虐待の現状や、それに関する法に規定された学校の役割を知る。学校等との連携した児童虐待対応が取れるよう、児童相談所の現状や考え方を知る。		
授業概要 （大まかな流れ）	例を挙げながら児童虐待の種類を説明したのち、児童相談所等における虐待対応や市町も含めた相談体制、児童虐待に至る保護者の背景を解説。その後、児童虐待防止法に規定された学校の役割について説明し、通告後に学校が知っておくべき保護者対応等についても解説した。		
活用した資料・データ等	三重県が公表している児童虐待対応件数等の基礎データ 厚生労働省発表の福祉行政報告例等の基礎データ 虐待報道の新聞記事等の資料 その他、各種文献資料		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） 子どもに関係する機関という共通点はあるものの、学校と児童相談所は教育と福祉という別の分野の機関であり、ベースとなるものも異なるため、児童相談所の事をいかに先生方にご理解いただけるかが心配点でもあり、力を入れた部分でもあった。 WEB開催、それもオンデマンド形式であったため、受講いただく先生方との接点は間接的なものに限られる中、こちらの意図が十分に伝わったかが心配される。 2）運営（連絡等） 事務方の皆様は、講習形式変更等で大変なご苦労をされたのではないかと想像するが、そんな中でも様々なサポートを頂けたことに感謝している。 3）その他 オンデマンド用の動画作成は初めてであったが、スライド作成のみならず、録音、聞き直しによる確認、修正など、相当の作業量が必要であった。ただ、忙しい先生方から、「空いた時間に聞く事が出来た」「確認したいところを」何度も聞き直せてよかった」との感想を複数頂き、少しでも先生方にとっての利便性が増したのであれば良かったと感じている。頂いた貴重な意見を次に生かしていきたい。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	山守一徳	記入年月日	2020 年 11 月 26 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2020 年 10 月 1 日～11 月 16 日
主 な 受 講 対 象 者 と 人 数	受講対象者：幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭、養護教諭 人数：23		
講 習 名	コンピュータハードウェアの基礎		
講習の目標	授業中等のトラブル発生時に対処ができるように、養護教諭も含め様々なパソコンを使う業務や授業において、ハードウェアの故障箇所を特定し部品調達や機種選定ができるようになることを目指す。		
授業概要 （大まかな流れ）	Windows デスクトップパソコンを用いて、ハードウェア部品の解説を行う。部品の調達についてもインターネットを使って注文一歩手前まで行い、機種選定の演習を行う。		
活用した資料・データ等	パソコン部品を販売しているインターネットショップのショッピングサイト		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 機種選定はできるようになったと思われる。 試験問題の第2問について、試験問題の第1問と混同したか、第2問の内容を誤解と思われる受講生がいた。「授業中に選定した部品」という表現が誤解を生んだようである。 2) 運営（連絡等） 提出にあたって、試験フォームの表紙と、試験問題の第1問、第2問をホチキス止めにして提出することと指示を出していたが、他の物もホチキス止めされていたのか、うまくいかなかった。 3) その他 試験の解答の手書き部分の指示を出したが、受講生の負担が大きかったようである。		

免許更新講習 担当講師の立場から

三重大大学教育学部音楽教育講座 川村 有美

今年度も選択講習「小学校音楽科の授業づくり」を担当した。例年通り、小学校で音楽科の授業を担当されている教員が主な受講者であった。昨年度まで本講習は講義と演習（音楽の実技を含む）の二本立てで実施していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、対面による講習ではなくオンデマンド配信によるオンライン講習となった。この点が例年と大きく異なる点である。

講習の実施方法が大きく変わったことに伴い、講習内容やその構成を見直し、組み直すことになった。ただしすでに周知した講習名と講習内容の大幅な変更は認められておらず、見直し・組み直しは想像していた以上に困難であった。また、双方向型オンライン授業は経験済みであったが、オンデマンド配信によるオンライン講習の実施は初めての試みであり、その編集作業にも予想以上の時間と労力が必要となった。幸い、同じく講習を担当される先生方から Moodle 等を介して得られる情報を足がかりとし、また、教務チームの手厚いサポートにも支えられながら講習の準備を進めた。

講習実施前、「オンライン講習では受講者の満足が得られないのではないか」「音楽科の授業づくりについての講習なのに、演習を伴わずに受講者の理解を深められるのだろうか」といった不安があった。そうした不安を抱えての講習であったが、終了後の受講者の声において、オンライン講習実施に関する項目で次のような意見をいただいた。

「実技を直接体験できないことは残念であったが、その分、具体例や実践の映像をたくさん見て学ぶことができ、とても充実した講習でした」、「端的な説明、動画の編集など、とても大変だったと思いますが、受講者にわかりやすく飽きのこないようにとても考えられているなと感じました」、「動画の公開期間が長いのも有難かったです」、「オンラインはわかりにくくてやりにくいだろうなと思っていましたが、実際、学習してみると、講師の先生の話がわかりやすく動画などもよく見れて良かった」、「限られた場での講習でありましたが、動画の内容の工夫がオンラインならではのことであったので、ありがたかったです」。

このように、概ね、肯定的かつ心遣いのある意見を頂戴して少し安心した。その一方で、今後の改善に関わる意見として、次のようなものがあった。

「レポートを書く負担が大きかった」、「受講するために費やす時間を考えた試験になるよう考えて頂きたいです」、「文字数の指定との戦いでした」。

これらの意見においては、認定試験の負担が主に挙げられている。こういった声が寄せられたこともふまえて、これからの講習を改善したい。

以上に述べたように、今回の講習実施に当たっては初めて経験することが多く不安からのスタートであった。しかし、限られた状況・条件下で工夫を凝らして講習を実施したことは、今まで得ることがなかった豊かな経験をもたらした。今は、この経験に対する充実感と達成感を抱いている。実技だから、演習だからと諦めず挑戦することが、オンライン講習の可能性を拓き、受講者の学びに結びつくことも実感した。このことは今回の大きな成果である。

来年度も、オンデマンド配信によるオンライン講習が予定されている。今回の経験を糧に、教育現場で活躍される現職教員・教育関係者に自らの専門を還元したいという思いを新たにしている。

担当講師の立場から

三重大大学教育学部社会科教育講座 内田 秀昭

例年開いている「公民経済分野の基礎と要点」の講習を担当した。今年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、初めてオンデマンド配信で講習が行われた。例年使用しているパワーポイントファイルをもとに音声を追加する方法をとったが、講師が一方向的に話すのみで受講者とのやり取りが含まれないため、これまでと同じ内容だけでは講習時間が余ってしまい、結果的にかなり内容を追加することになった。講義内容は「市場均衡」、「独占」、「貨幣」、「金融」、「国際貿易」、「国際金融」、「日本の財政」、「景気安定化」の8つのテーマについて各40分の動画を作成した。例年はこれらのうち5つ程度しか扱っていなかったもので、いつもの1.5倍以上の内容量を詰め込むことになった。動画の作成にあたってはパワーポイントを使った方法など詳細な動画を提供していただいたので、特に戸惑うことなく順調に進めることができた。ただし、言い間違った箇所を修正しながら合計5時間以上の動画を作成するのに長時間を要した。

今回は例年のように受講者の様子を講習中に直接見る機会がなかったので、受講者が記入した評価書に基づいて講習への反応を振り返る。受講者は7名で概ね良好な評価が得られた。講義内容は中学校の社会科公民の検定教科書を意識して、授業で使いやすい教材を提供できるよう心がけているので、評価書でも「すぐに授業に活用できる内容で大変良かったです。早速3学期の授業で使わせていただきます。」、「実際の教材を例にとりながら子どもへの質疑の方法などを教えて頂けて聞きやすかった。」、「授業に使える教材をいくつも示していただけたように思います。」という回答を得ることができた。

多くの受講者にとってオンデマンド形式は初めてであったようで、講習の方法についてもいくつか意見をいただいた。好意的なものとしては、「わかりにくいところを再生し直したり、何度も視聴できる点はよかった。」という意見や、「本講義では途中の課題取組み時間が一時停止するなど受講者が時間を測って行えるところが良かった。」という意見があった。昨年度までは、評価書に「〇〇の部分は難しくて十分に理解できなかったので、配布資料をもとに復習します」と書かれたこともあり、また講習中の課題の進捗状況が受講者によって異なっていたので、自分のペースで視聴できるのはオンデマンド形式の長所だと感じた。一方で、「期間をもっと長くしてほしい」、「視聴期間は親の介護をしている私にとっては短く厳しいものでした」という意見もあり、これらの点は来年度以降の課題として改善する必要があると感じた。

講習担当講師の立場から

所属（三重大大学教育学部） 氏名 余 健

国語教育や日本語教育の初期段階の文字表記に関する一般的な教育としては、文字の誤りの指摘、例えば、促音を小さく書けない（『かっぱ』を『かつぱ』と表記）児童に対して、「大きな『つ』ではなく、小さな『っ』を書くように」との朱書きの指導が入ることが一般的であると考えられる。そのような指摘を受けた 国語教育や日本語教育の初期段階の学習者は、大人であれ子供であれ、その指摘の意味がわからず、困惑することも多いだろう。

そこで、本講習では、上記の促音を始めとする初期段階で問題となる表記（撥音・長音・直音と拗音・エ列長音とオ列長音）の根本的な問題点をまず、体感的に受講生の皆さんに実感してもらうことから始めている。つまり、その問題点が、「音の聞こえ（エネルギー）の小ささ」と「音節構造におけるモーラのレベルが習得されていないこと」のインプット面にあること、また特に、エ列長音とオ列長音の混乱においては、共に問題点が「発音と表記が1対1で対応していない」問題にあることを具体的に確認し、本講習の各問題点の導入に当てている。なお上記の諸点の導入時には、音声学と音韻論における基本的な知見に基づき可能な限り余が発音の実演や各資料に基づいた説明をまず行い、次いで受講生の皆さんにも一緒に発音してもらったり、声帯振動の有無等を一緒に確認したりして、理論的な説明だけでなく、具体例に基づき上記の根本的な問題点に関する理解を深めて頂くことを目指して講習を進めた。

上記の導入の後に、アウトプットの文字を書く際の問題点を解決するために、MIM理論（海津亜希子氏提唱）に基づき、「①音の確認→②視覚化→③動作化→④音と文字との対応」の各段階における教材ビデオ（海津氏監修）を視聴頂き、そこに取り上げられていない撥音の教材ビデオや説明の補足を各資料に基づき、余が行っていった。この際も、受講者の方に共に、実演していくことを呼びかけ、座学のみの内容にならないよう、心掛けた。

このように、インプット面とアウトプット面のそれぞれにおける問題点や両者にまたがる問題点を整理して、説明と確認を実践的に実施したことで、受講生の皆さんからは、概ね本講習の受講内容に対して、「導入の基本的な問題のありかに関する説明の後に、指導法を確認する流れであったのでわかりやすかった」との感想を頂いた。

一方で、オンデマンド式の目前に受講生がいない形式で授業を行うことに慣れておらず、収録はかなり苦勞し、また余裕もなかったため、「受講生の学習意欲がわくような工夫」にまでは、あまり意識を向けられていなかった。

今後の講習に向けての課題とさせて頂きたい。

おわりに—今後に向けて

三重大大学教育学部 伊藤 敏子

2020 年春は学校教育関係者に「新しい学習指導要領が小学校で全面実施される春」として意識され、新たなスタートに向けて準備が進められていました。しかし、2020 年春は学校教育関係者に「新型コロナウイルス感染症への対応に翻弄される春」として記憶されるという思いがけない展開となりました。

95%の小中学校と 97%の高校が臨時休校を実施していた 4 月下旬、文部科学省の「対面式免許状更新講習の実施方法の変更に関する手続きの特例について」を受け、11 年間にわたりすべての免許状更新講習を対面式で実施してきた三重大大学は、急遽、「すべての免許状更新講習をオンデマンドで実施する」方向に舵を切ることになりました。「大学の授業がすべて遠隔授業へと変更されたことで初めての遠隔授業の実施に試行錯誤を重ねている免許状更新講習担当者にさらに初めてのオンデマンド教材の作成をお願いしなければならないこと」や「日常生活であまりインターネットに馴染んでいないかもしれない再任教員を含むすべての免許状更新講習受講者にオンデマンド教材による学修をお願いしなければならないこと」等、さまざまな不安要素を抱えながらの決断でした。

幸い、コロナ禍の大変な状況のなか、多くの免許状更新講習担当者のご協力を得、そして多くの免許状更新講習受講者のご理解を得、2020 年度の免許状更新講習を実施することができました。免許状更新講習担当者の方々、そして免許状更新講習受講者の方々に、心より感謝申し上げます。

今年度、文部科学省の「対面式免許状更新講習の実施方法の変更に関する手続きの特例について」に背中を押されるかたちでインターネット活用型の免許状更新講習の実施という未知の領域への一歩を踏み出すことになった三重大大学ですが、実際には他大学における免許状更新講習の動向をリサーチするなかで「三重大大学でも対面式免許状更新講習だけではなくインターネット活用型の免許状更新講習の実施を検討する時期ではないか」という意識は高まっていたところでした。結果的には「慎重な検討を重ねて満を期してのインターネット活用型の免許更新講習実施のスタート」ということではなく「新型コロナウイルス感染症の登場で突如のインターネット活用型の免許状更新講習実施のスタート」となりましたが、今年度のインターネット活用型の免許状更新講習実施は三重大大学の今後の免許状更新講習の実施を構想していくうえで多くの貴重な学びをもたらしてくれました。オンデマンド教材による学修では「受講者のスケジュールに合わせて隙間時間を利用しながらの受講」や「関心のある部分や理解できなかった部分を繰り返し確認しながらの受講」といった対面式免許状更新講習では実現できない「一人ひとりのペースに合わせた受講が可能」という長所をご報告いただきました。その一方で、さまざまな校種に関わる受講者やさまざまな年齢層に属する受講者が交流する活動を重視する受講者からは対面式免許状更新講習の必要性をご指摘いただきました。

「対面式免許状更新講習でしか実現できないもの」と「インターネット活用型の免許状更新講習でしか実現できないもの」。2020 年というコロナの年に獲得された知見を活かしながら、免許状更新講習担当者にとっても免許状更新講習受講者にとってもさらに有意義な講習の実現に向けて今後も引き続き努力を重ねていきたいと思います。